

秋田大学 概要

平成30年度

2018

A K I T A U N I V E R S I T Y

秋田大学概要

平成30年度

目 CONTENTS 次

- 01 学長あいさつ
- 03 基本理念、第3期中期目標・中期計画

教育・研究

- 06 卓越した教育と研究
- 07 地方創生・産学連携
- 09 国際交流

学部・大学院

- 12 国際資源学部
- 13 教育文化学部
- 14 医学部
- 15 理工学部
- 16 [大学院]国際資源学研究科／教育学研究科
医学系研究科／理工学研究科

大学施設

- 18 附属図書館
- 19 医学部附属病院
- 21 国際資源学研究科附属鉱業博物館
- 22 附属学校園及び教育研究施設等
- 23 学内共同教育研究施設
- 24 センター／技術組織
- 25 福利厚生施設等／体育施設
- 26 東京サテライト／
横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校
- 27 インフォメーションセンター

- 28 平成30年度主な課外行事

資料編

- 31 沿革
- 34 歴代学長
- 35 運営組織
- 36 教育研究組織
- 37 事務組織
- 38 役職員
- 39 学生の定員・現員
- 40 入学志願者・入学状況／出身高校所在地別在学状況
- 41 卒業者・修了者数／学位授与数
- 42 卒業者等就職状況／平成28・29年度学生表彰(学業奨励金)受賞者
- 43 平成29年度学生表彰等受賞者
- 46 外国人留学生数／外国人研究員等
- 47 国際交流協定校
- 48 公開講座(平成29年度)
- 49 国内機関との連携・協力協定
- 50 役員数／教職員数
- 51 平成30年度予算／外部資金受入状況／
平成29年度科学研究費助成事業採択状況
- 52 土地・建物
- 53 各連絡先・所在地一覧
- 54 手形地区施設配置図
- 55 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
- 56 アクセス



学長あいさつ

Message from the President

秋田大学は、平成26年度の大幅な組織改革によって、国際資源学部、教育文化学部、医学部、理工学部の4学部体制となりました。平成28年度からはさらに、大学院を国際資源学研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科の4研究科体制とし、総合的な教育研究体制が整いました。社会から求められている大学の使命である、最先端の教育研究を強く意識した体制の地盤がより強固なものになりました。

文部科学省は大学経営の基盤となる運営費交付金改革において、全国の国立大学の強み・特色を發揮し、機能強化の方向性に応じた取組をきめ細かく支援するため、国立大学法人運営費交付金のなかに、①地域のニーズに応える人材育成・研究を推進、②分野毎の優れた教育研究拠点やネットワークの形成を推進、③世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進の「3つの重点支援の枠組み」を創設しました。私たちの秋田大学は、①地域のニーズに応える人材育成・研究を推進する大学を選択しており、これまで以上に地域貢献に資する最先端の教育研究

が求められております。

秋田大学はこれまで(1)世界・地域を見据えたリーダーを育む(2)世界・地域を視野に未来を創造する(3)地域と共生し豊かな社会を創る(4)地域に根ざし世界を目指す、というビジョンに沿って歩んでまいりましたが、その基礎となるものは世界と地域に貢献する最先端の研究、およびその目的にアプローチする研究が可能な人材の育成であります。さらに、世界は刻々と変化しており、今や想像を絶するスピードで社会が進化しているなか、我が国ではSociety 5.0(超スマート社会)への対応が叫ばれているところであります。こういった新しい社会へ十分に順応できる学生を輩出するための改革も行っております。未来に向けた最先端の教育・研究、これが秋田大学の特徴であり、強みでもあります。不確実な未来に向けて、自信を持って羽ばたいていける学生の教育、今、これが最も求められているものと認識しています。秋田大学に関わる全ての教職員が「学生第一」を掲げているのも、そこあります。学生にきめ細やかな教育環境を提供し、知的好奇心を育んでいくことが、世界と地域への道標となるのです。

秋田大学は、この地を軸に、世界を視野にした四つの学部を構えております。そこには、私たちが育んできた「歴史」と「誇り」があります。

教育文化学部。ここには、小中学生の学力日本一という秋田の、教育の支柱となる教員を養成してきたという実績があります。学校教育課程においては、きめ細やかな教育プログラムに加え、伝統に育まれた教員養成を展開しています。教員は次世代を担う皆さまを良き「後継者」として育てて世に送り出し、時代を繋いでおります。地域文化学科では、何事にも対応できるための「教養」を身に付けることを目指しております。柔軟な思考を育むことを通じて、不確実性ともいえる時代に臨む皆さんを支援しております。

私たちが暮らす秋田は、国内では有数の資源を誇る地であります。そしてそのフィールドは今、世界へつながっております。国際資源学部という学部名に込められた思いは、ここにあります。鉱山専門学校に始まり、鉱山学部、工学資源学部で発展させてきた、世界に誇れる研究成果と人材の育成。世界に例を見ない資源学の総合教育研究体制を敷いています。ここでは3年生になると、全員が4~5人のグループに分かれ、海外資源フィールドワークに参加します。他大学に進学した高校の同級生が、生涯行くことはないであろう地にも赴きます。資源学の現場。日本の最前線を世界で知る機会を通じて、皆さんは学問が生きていることを実感できるはずです。

理工学部は、資源系の学部であった工学資源学部から理学系の要素を取り入れた学部として発足しました。誇るべき

き研究成果が続々と秋田（大学の研究室）から発信されております。例えば、メタルナノコイルから航空機複合材成形。この研究は複合材の軽量化・低コスト化を目指すものです。次世代航空機の機体の材質への応用が期待され、世界が注視しております。

医学部においては、世界に発信できる教育研究の成果と地域医療への貢献が挙げられます。医師国家試験の合格率は例年、全国の医学部でも上位にランクされております。きめ細やかな教育の証左といえましょう。保健学科も、人を支える挑戦を続けています。看護師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験は、ほぼ100%の合格率を維持しています。

また、地域に貢献する教育研究活動にも力を注いでいます。秋田県の地域活性化へのさらなる貢献を目指し、平成28年度に設置した地方創生センターは、地域協働・防災と、地域産業研究の2部門からなります。地域協働・防災部門では県内3か所に設置した「分校」を拠点に、地域の人たち、学生、教職員が一体となり、例えば米作り、オリジナルのいぶりがっこ作りなどを通じて、秋田の良さを再認識することを目指しております。また、将来の夢の実現の一歩とするための「教育ミニミニ実習」と称した、教員志望の啓発活動等、故郷の誇りを広げていく試みを続けております。地域産業研究部門では、秋田県の重要な政策にリンクした研究事業を開催。県内産業の育成は、「COC+事業」の目標でもある大学生の県内就職率のアップに大きく貢献できることと考えております。

さらに、医理工連携をより効果的かつ力強く推進するため、東京工業大学、秋田県医師会の3つの組織間で連携し、医療・介護機器や医薬品の開発等による産業の創生や振興に向けた取り組みを進めているところです。また、秋田県は少子高齢化の最先端県であります。このような現象により引き起こされる合併症の予防・治療は解決すべき喫緊の課題であり、秋田大学の貢献が大きく期待されているところであります。秋田大学では、このようなことを俯瞰し、高齢者医療に特化した研究拠点として、平成29年度に秋田県からの補助を受け、「高齢者医療先端研究センター」を設置し、高齢者医療の先端的な研究のほか、地域社会学の知見を踏まえた学際的な研究を推進しております。このように秋田大学は、オール秋田の中心としての役割を果たすべく活動しております。

シームレスで行われる学部教育から大学院教育。そして明確なミッションを掲げた各センター。これらが「優秀な卒業生を社会へ、そしてすぐれた研究を社会に還元する」という秋田大学の使命に応える礎といえます。その活動の成果が、2017年度に卒業した国際資源学部の1期生をはじめ、同時に改組した教育文化学部及び理工学部のほか、医学部も含めた全ての学部・学科等において、就職率100%という結果になっております。また、日経HR「価値ある大学2018年版 就職力ランキング」において、企業が選ぶ「採用を増やしたい大学ランキング」で秋田大学が堂々の全国一位に選ばれました。卒業生の「行動力」、「対人力」が高く評価されたものです。これらは、卒業生自身の努力の賜であることは言うまでもありませんが、それをバックアップする土壌が秋田大学にあることの証明であると、誇りに思っている次第です。

秋田大学を「母校」とする我々は皆、優れた学生諸君を社会に輩出すること、そしてこの地（秋田）が輝きを増すことを期待しております。

国立大学法人秋田大学長 **山本 文雄**

基本理念

1. 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

第3期中期目標・中期計画

(平成28年4月1日～平成34年3月31日)

Mid-term Objectives and Plan

国立大学法人秋田大学の中期目標 (前文)大学の基本的な目標

秋田大学は、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げ、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、その使命である教育と研究を推進する。

この見地から本学は、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、優れた人材を育成するため、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進する。

全地球的な視野を持ちつつ、諸課題に正面から向き合い、地に足をつけて行動できる規範意識を内在させた社会人を育成するためには、充実した教養と専門、さらには分野融合的な教育が不可欠である。そこで、本学の国際資源、教育文化、医、理

工の四学部は、固有のミッションに基づく専門領域と諸学諸組織との融合を通じて、地域社会の持続的な発展を担う専門的職業人と国際社会で活躍する高度専門職業人及び学術研究者を育成する。

こうした基本認識に立って、本学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学修者を中心の大学たることを目指す。

以上のような理念に基づき、活動の基本的な目標を以下に定める。

1. 教育においては、質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成する。



中 期 目 標

2. 研究においては、地域の特性を活かした研究とグローバルな課題に対応する研究に取り組むことにより、イノベーションの創出を推進し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会連携においては、教育研究成果を地域社会に還元し、地域と協働した地域振興策の取組を推進するとともに、地域医療の中核的役割を担う。
4. 国際化においては、資源産出国を中心とした諸外国の留学生・研究者との学術交流を推進するとともに、学生や教職員の海外留学・派遣を促進する。
5. 大学経営においては、学長主導の下、学生及び教職員一人ひとりの活力を相乗的に高めた組織文化を浸透させ、透明性を確保した健全で効率的な大学経営を目指す。

- I 大学の教育研究等の質の向上
- II 業務運営の改善及び効率化
- III 財務内容の改善
- IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供
- V その他業務運営
に関する目標を達成するためにるべき措置として、中期計画を設定しています。

本学の中期目標・中期計画の全文は
<ホームページ> http://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_target.html からご覧いただけます。

教育研究

卓越した教育と研究
○博士課程教育リーディングプログラム
　　レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム
○「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業(COC+事業)
　～若者の地元定着の促進と若者の育成～
○国際科学技術共同研究推進事業
　　地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)
○未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

地方創生・产学連携

国際交流

卓越した教育と研究

博士課程教育リーディングプログラム レアメタル等資源ニューフロンティア リーダー養成プログラム

(実施期間:平成24年度採択~平成30年度)

大学院国際資源学研究科に「資源ニューフロンティア特別教育コース」を開設し、従来の資源学に留まらずリサイクルや資源経済、さらに環境保全や資源リテラシー、異文化理解、国際関係などを含めた知識、能力を養成し、21世紀の国際資源開発に関わる諸問題に俯瞰力をもって挑める人材「資源ニューフロンティアリーダー」の育成を目指します。



男鹿半島での地質調査の様子

「地(知)の拠点大学」による 地方創生推進事業(COC+事業) ～若者の地元定着と若者の育成～

(実施期間:平成27年度採択~平成31年度)

平成27年度の文部科学省の新規重点補助事業で、地域活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するなど、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を図ろうとするものです。県や商工団体など事業協働機関とともに、5年間で「学生の地元就職率10%アップ」を目指します。



秋田ものづくりオープンカレッジ



平成29年度COC+フォーラム

国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学 技術協力プログラム(SATREPS)

持続可能な資源開発実現のための空間環境解析と
高度金属回収の融合システム研究

(実施期間:平成26年度採択~平成31年度)

環境汚染に悩まされるセルビア共和国の銅資源開発地域において先進リモートセンシングデータと地表データを組み合わせた3次元的な環境評価・解析と高度な金属回収技術を融合し、持続的な資源開発に不可欠な開発と環境との両立を目指した広域環境評価修復システムの研究開発を進めています。

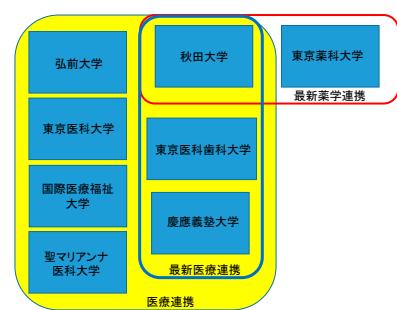


セルビア共和国での調査の様子

未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

(実施期間:平成29年度~平成33年度)

平成29年度に文部科学省が新たに募集した「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」に対して、秋田大学は前回の養成プランに



引き続き、東京医科歯科大学を主幹校とする養成プランに参加することになりました。本プランでは、この他に慶應義塾大学、国際医療福祉大学、聖マリアンナ医科大学、東京医科大学、東京薬科大学、弘前大学も参加しており、合計8大学が連携することになります。このプランを契機として全国でも最も高齢化率の進行が早く、がん死亡率でもワーストの秋田県のがん医療環境、特に人材養成の観点から一層の改善を目指します。これまでの「がんプロ」事業で標準化、均一化という目標は達成しました。

しかしながら、がん治療は止まることなく進歩しており、個別化という要素を取り込んだ「がんゲノム」「プレゼンション・メディシン」の実践が求められています。本プランを県内のがん拠点病院、さらに医療関係の職能団体との連携事業として位置づけ、修了者が県内で主導的に活躍できるように働きかけていきます。

具体的には県内のがん拠点病院に包括的ながん治療を実践できる「腫瘍科」を開設します。また、人口の少ない秋田県だけでは希少がんを経験しづらいが、連携8大学において、レアキャンサーのレジストリーやボードミーティングを設けて集積された治療成績をレファレンスとして使用できるようにするなど枠組みを構築します。

地方創生・产学連携

秋田大学は、平成16年度の国立大学法人化を契機に、教育・研究・社会貢献を大学運営の重点事項として掲げ、公共的な知の拠点として大学開放事業を推進しています。

本学の社会貢献活動の根底には、学生のみならず生涯学習も教育の一環であり、社会の人々にも積極的に教育資源を提供していくという思いが込められています。そのコンセプトを基に、様々な活動を展開しています。また、高校生やその保護者、

地域協働・社会貢献

■公開講座

生涯学習の一環として、市民・県民の皆様どなたにでも本学の良質な教育資源を提供するために、毎年多種多様なテーマで公開講座を開講しています。

※平成30年度開講の講座は本学公式ホームページをご覧ください。



■子ども見学デー

毎年夏休みに、小学生とその保護者の方を対象に「子ども見学デー」を実施しています。大学内の見学や研究室での実験、天体望遠鏡での観察など、様々な体験を通じて、大学に対する関心を高めてもらうことが目的です。



■投球障害予防教室の開催

超音波によるメディカル・チェックなどを通じて故障の原因となり得る要素について知つてもらい、自身の体のケアについて意識するきっかけとすることを目的に開催しています。



県内の野球関係スポーツ少年団員及びその保護者・指導者を対象に、超音波検査による、骨や筋肉の状態、腕や足・体幹の柔軟性、投球フォームなどをチェックし、その状態に適したストレッチや投球指導を実施しています。

■メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

社会貢献事業の全学的な取り組みとして、本学の持つ学術的知見を分かりやすく県民へ提供するため、学部間連携により各学部から講師を招き、医学系研究科長がサイエンスカフェ・マスターとなって、幅広い視点から医学・健康に関する話題を提供しています。

あるいは小・中学生を対象とした企画も実施しています。

平成28年4月には地方創生に取り組む地(知)の拠点大学として、新たに「地方創生センター」を設置しました。当センターは地域との協働による地域振興策の取組及び地域防災等の研究・支援並びに地域産業の成長に資する研究を推進し、地域を担う人材育成の推進と地域の産業振興、活性化に貢献します。

■地域課題の解決を目指した 「学生自主プロジェクト活動」支援事業

学生が、他者と協力しながら地域課題の解決を目指してグループで活動することを通して、主体的に地域に目を向け、地域の特性(特徴)を再認識するための活動を支援するものです。地域に関わる学生の増加と、地域志向型人材の育成を通じた課題解決型人材の育成に寄与することを目的としています。



地域防災

1. 秋田県の特性を考慮した 地域防災のあり方に関する調査・研究

- ①秋田県内の地震防災について基礎的研究を行います。
- ②秋田県沿岸で過去に発生した津波の影響範囲や履歴を調査し、津波被害の軽減について研究します。
- ③秋田県内に将来甚大な被害をもたらす可能性がある地震・津波について調査・研究します。

2. 防災について地域で活動できる人材の育成

地震災害が発生した場合に地域住民自らが減災活動を行えるように、自治体・町内会、教育機関等で防災教育を実施します。



3. 県及び市町村への防災施策に関する指導助言

秋田県の地震被害の想定並びに地震防災対策を推進するために、県内自治体が考える防災・減災対策について、地域の特性を考慮しながら指導・助言を行います。



地域産業研究

■資源開発・環境リサイクル研究開発事業

天然の鉱物資源や石油、天然ガス等のエネルギー資源に関する開発と生産・利用にはじまり、資源精製や素材生産、レアメタル等のリサイクルから環境修復技術に至る高度で独創的な研究を推進し、国際的な視野に立った先進的教育研究拠点を構築します。



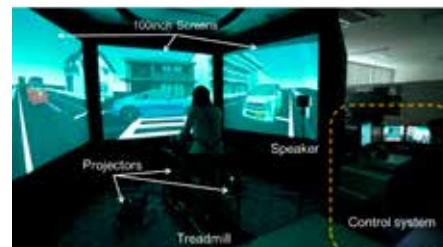
■新素材・機能性材料開発研究事業

新素材・機能性材料開発事業では秋田大学における基礎研究成果を基盤とした新素材や先端材料の開発に関連した研究を推進し、地域の高等研究機関としての機能を果たすことで、これら研究をとおして秋田県内企業、大学、公設試の連携による新産業や雇用の創出を目指します。



■自動車・航空機産業研究開発事業

航空機、自動車などの輸送機産業を推進する地域への貢献のために、次世代の航空機、自動車のための複合材料成形プロセス・CAE構造設計技術、高効率動力システムおよび運動・歩行者支援とインフラに関する研究開発を推進します。



■新エネルギー開発研究事業

秋田県に豊富に賦存する再生可能エネルギー資源、特に風力エネルギーを活用した県内の産業振興や、産業を支えるための人材育成に協力しています。

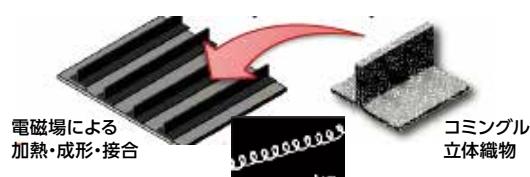
■医理工連携産業研究開発事業

秋田県内を中心とした企業と共に、医療・福祉関連分野における少子高齢化に伴う新しい機器の開発と事業化を推進します。開発機器は医療機器だけではなく健康増進、長寿に関する一般ユーザーを対象としたものに広げ、産学官連携による医療機器産業の育成に努めます。

複合材の新たな製造技術及び接合検査技術に関する研究開発

(研究主体: 村岡 幹夫 理工学研究科教授)

航空機機体主要構造物をターゲットとした複合材の革新的な低コスト製造技術・検査技術を開発。秋田県での航空機部品等の事業化を目的に県内企業とともに平成29年4月「秋田複合材新成形法技術研究組合」を設立し、製造拠点の創生を目指しています。



微小金属体による複合材発熱技術(秋田大学シーズ)



秋田県内での製造拠点化を創生

国際交流

世界に広がる 学術ネットワークと海外拠点

今まで大学間協定は28か国・地域56大学、部局間協定は11か国・地域21学部等となりました。今後も協定校との学術交流、学生交流を推進し、積極的な国際交流をすすめています。

海外拠点の設置にも力を入れています。2012年、初の海外事務所としてモンゴル科学技術大学内に、「秋田大学モンゴル事務所」を開設しました。2016年に新モンゴル学園内に移設し、本学研究者の現地における調査研究や新モンゴル学園から本学へ進学を希望する留学生の教育支援、広報、研究者との交流拠点として利用しています。

2013年に、二つ目の海外拠点として、バンコク(タイ王国)のチュラロンコン大学内に、秋田大学・チュラロンコン大学共同研究室を置きました。チュラロンコン大学と共同研究を行っている秋田大学のチームが使用し、両大学にとっての研究及び現地調査の拠点となっています。

2014年に北都銀行バンコク連絡事務所内に開設した「秋田大学バンコク事務所」は、東南アジア地域における事務的拠点として、現地関係機関との連絡調整及び留学生獲得のための広報活動を行っています。本事務所は、「秋田大学・北都銀行における新戦略連携協定」の締結に合わせて設置されました。2015年に、秋田県はタイ進出秋田県関連企業ネットワークを組織し、バンコク都内で設立総会を開催しました。本学では、この機会にあわせてスラナリー工科大学・秋田大学・北都銀行のMOU締結式を行っています。

インドネシアにも二つの拠点を作りました。2015年に、トリサ

クティ大学内に開設した「国際資源学部・トリサクティ大学共同研究室」は、顕微鏡や岩石カッターなどの研究機器を備えた研究室です。国営石油会社ブルタミナから試料の提供を受けるなど、通常は権益の関係から入手が難しい石油資源データを集め、共同で石油探査の技術力を高めています。翌2016年には、ハサヌディン大学内に、国際資源学部とハサヌディン大学工学部との共同研究室を開設しました。室内には、秋田大学の偏光顕微鏡、顕微鏡用デジタルカメラ、研磨機などを設置しています。インドネシアに研究拠点を置くことで、アジアの地下資源をテーマにした共同研究、共同による地域の探査・開発への取り組みがさらに強化されることが期待されます。

2017年には、ボツワナ国際科学技術大学内に「秋田大学ボツワナ事務所」を開設し南部アフリカ地域での調査研究・教育活動を行うほか、国際資源学部3年次必修科目「海外資源フィールドワーク」の南部アフリカ地域の拠点として活用しています。



開所式での調印の様子

資源開発の研究拠点から 留学生広報まで

全学組織として平成21年に設置された国際資源学教育研究センターは、国際資源学研究科を母体とし、資源保有国への技術支援や、資源学シンポジウムを開催し、資源開発における研究拠点を目指しています。

中でも、ショートステイプログラムは資源保有国協定校の大学生を対象とした体系的な教育プログラムであり、4週間の受け入れ期間中、実験の他、県内資源関連施設の視察などを行っています。



最近は、プログラムを終えて帰国した学生が、正規留学生や交換留学生として、再び本学に戻ってくるケースも増えてきており、本学の海外広報としての役割も期待されています。

秋田大学は世界に開かれた大学として国際交流の拡大を図っています。そのために、学生及び教職員の海外留学・派遣の促進と外国人留学生の受け入れの増加、受け入れ環境の整備等に努めています。平成20年2月には国際交流センターを設立し、戦略的な国際交流を進めるための体制が整いました。

外国人留学生に対する教育・生活支援の充実

留学生数の増加に伴い、教育支援体制の整備も積極的に行っています。

秋田の文化に対する理解を深めるため、農家民泊やもちつき、角館火振りかまくらやスキーツアーなど、地域に根ざしたイベントを企画し実施しています。また、「チューター制度」を採用することにより、日本人学生が留学生の日本語学習や生活のサポートを行っています。

平成22年4月には「多文化交流ラウンジ」が設置され、全学生、教職員が多言語を自律的に学べる場となっています。

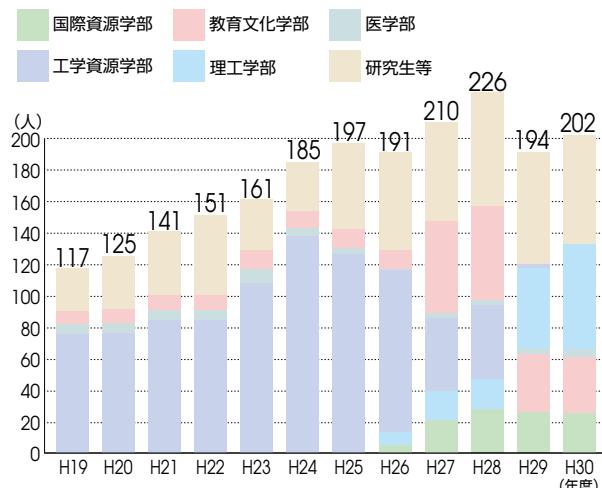


田植えを体験する留学生



多文化交流ラウンジ

〈留学生数の推移〉



国際的視野を持った人材の育成

若手教育系職員を海外の大学等に派遣し、国際的な視野を持った人材の育成を目指すため、「秋田大学研究者海外派遣事業」を実施しています。制度化した平成20年度から今までに、毎年約3名程度、計28名の研究者がこの制度を利用し、海外の大学で研究を行いました。

また、学生に対しては、協定校などの海外の大学へ留学する際の経済的支援のため、「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」を実施しています。これは往路に要する国際線の航空運賃の一部(アジア圏上限4万、それ以外上限10万)を支給するもので、平成29年度は4名に対して支援を行いました。



海外留学説明会

学部・大学院

-
- [学部]
国際資源学部
Faculty of International Resource Sciences
- 教育文化学部
Faculty of Education and Human Studies
- 医学部
Faculty of Medicine
- 理工学部
Faculty of Engineering Science
- [大学院]
国際資源学研究科
Graduate School of International Resource Sciences
- 教育学研究科
Graduate School of Education
- 医学系研究科
Graduate School of Medicine
- 理工学研究科
Graduate School of Engineering Science

国際資源学部

国際資源学部は、資源生成メカニズムの解明から資源探査・開発・生産までを対象とした理工系分野と、資源国との政策・文化や資源経済などを対象とした人文社会系分野からなり、資源を網羅的に学ぶことができる我が国唯一の「資源学」を対象とした学部です。世界の第一線で活躍する教授陣を結集し、世界をフィールドに、資源の最先端を学びます。国内外の大学や企業、研究機関との強力な連携体制のもと、国際舞台で活躍できる資源人材を養成します。

■学部の構成(1学科)

【国際資源学科】

地球規模の資源問題解決に向けて、国際的な視野をもち、実践的能力を育みます。

●資源政策コース(文系)

資源を取り巻く国際情勢や政策を理解し、関連する国際法や資源経済、資源国との契約や交渉術、その背景となる資源国の人間文化などについて学びます。

●資源地球科学コース(理系)

世界を対象とした資源分野の予測と新たな地球資源の可能性を探求するため、地質学、鉱床学などの最先端地球科学を基礎とした地球史をダイナミックに考察します。

●資源開発環境コース(理系)

資源・エネルギーの探査・開発、生産手法から、製錬・リサイクル技術や環境保全に至るまで、資源開発と地球環境との関わりを包括的に学びます。



カリキュラムの特色

1年次	学部共通科目		
	資源政策コース 資源地球科学コース 資源開発環境コース		
	教養教育科目 基礎教育科目		
	○初年次ゼミ ○主題別科目 ・現代社会・人間と文化・科学の研究 ・生活と保健・地域社会・技能の活用 ○国際言語科目 ○スポーツ文化科目	・国際資源外交史 ・異文化コミュニケーション ・資源開発界と人権問題 ・マイクロ地質学 ・マクロ経済学 ・日本の国際協力 ・基礎統計学	・I-EAP Certificate ・基礎数学 ・基礎物理學 ・基礎化學 ・基礎物理学実験 ・基礎物理学実験 ・基礎統計学
資源学実習 地質巡検の実施、鉱山・精錬所・リサイクル施設への訪問（全学生必修）			
2年次	資源政策コース専門科目 資源地球科学コース専門科目 資源開発環境コース専門科目		
	●資源政策論 ●環境経営学 ●国際開発論 ●国際情勢分析論 ●エネルギー政策 ●資源地域研究 ●資源動向論 ●国際協力特別講義 ●資源経済学 ●環境経済学 ●応用資源地図研究 ●国際協力特別講義 ●専門プレゼンテーション技法 ●資源開発生産論 ●資源循環学 ●リサイクルシステム学 等	●国際法学 ●政策過程論 ●文化人類学 ●石油資源論 ●地質学 ●地質学実験 ●岩石学 ●地質物理学 ●古環境解析学 ●構造地質学 ●石油鉱床学実験 ●地史学 ●地質学実験 ●古生物学 ●金属鉱床学 ●堆積学 ●X線結晶学 ●リモートセンシング地質学 ●岩石鉱物鉱床実験 ●専門プレゼンテーション技法 ●物理探査学	●地質学 ●石油地質学 ●鉱物学 ●鉱物学実験 ●岩石学 ●地質物理学 ●地球物理学 ●古環境学 ●構造地質学 ●石油鉱床学実験 ●地史学 ●地質学実験 ●古生物学 ●金属鉱床学 ●堆積学 ●X線結晶学 ●リモートセンシング地質学 ●岩石鉱物鉱床実験 ●専門プレゼンテーション技法 ●物理探査学
	海外資源フィールドワーク（全学生必修）		
	●研究プロポーザル 等	●応用金属鉱床学 ●応用鉱物学 ●研究プロポーザル 等	●資源開発環境文献講読 ●研究プロポーザル 等
卒業課題研究			
3年次	I-EAP（集中大学英語） 国際資源クリエイティブ演習 海外資源フィールドワークのための事前・後習		
	○必修科目		
	ディスカッション演習 ディベート演習 プレゼンテーション技法		
	実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めています。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けることができるカリキュラム。		
4年次	国際資源クリエイティブ演習 海外実習必修の教育制度 3年次の後半に、全学生が海外資源フィールドワークに参加します。国際資源学部を設立するにあたって、国内の大学や企業はもちろん、海外の大学や企業からもご協力をいただき、国際資源学部の学生全員が海外で1ヶ月程度のフィールドワークを体験できるネットワークを用意しています。候補地としては、ヨーロッパや北米、モンゴルやインドネシアなど、世界各地の鉱床などがあります。運営されている鉱床そのものを見たり、それに附属する研究施設を見学したりして、実際に稼働している資源開発の現場に入ることで、これから自分の取り組む研究のテーマを体験します。		

教育文化学部

教育文化学部は、教員養成を担う学校教育課程と地域協働の核となる人材養成を担う地域文化学科の1課程1学科からなります。学校教育課程は、教育現場との密接な連携を図りつつ、現場実践力のある教員を養成、全国最高水準の秋田県教育の継承と活性化を目指します。地域文化学科では、社会科学と人文科学などの多様な学問分野の学習と、地域と連携した授業やフィールドワークなどの実習を通じて、地域の諸課題について国際的な視点とローカルな視点から実践的に学ぶことができます。

■学部の構成(1課程1学科)

【学校教育課程】

地域の教育の活性化に貢献する教員を養成します。

●教育実践コース

小学校教員の養成を主とし、中学校教員養成も含めて、小中連携にも対応できるようになるとともに、子どもの心身の成長発達について理解を深め、全国トップクラスの学力を支える高度の実践力を持った教員を養成します。

●英語教育コース

小中高の連携による英語教育を実践できるとともに、秋田の次世代のグローバル人材を育てるために、英語力のみならず異文化間コミュニケーション能力を持った教員を養成します。

●理数教育コース

理科または算数・数学の体系的な知識と指導法を身に付けて、理科や算数・数学のおもしろさを子どもに伝えることができ、実感を伴った理解へと学習を発展させることができる教員を養成します。

●特別支援教育コース

特別支援学校および小・中学校等で特別支援教育を担うとともに、インクルーシブな環境で、発達の特性や特別なニーズに対応した支援を実践できる教員を養成します。



●こども発達コース

幼稚園や保育所の教員・保育士及び小学校教員の養成を主とし、幼保小連携に対応できるスキルを身につけるとともに、人間の生涯にわたる発達過程や、児童教育・保育と学校教育の全過程を見通しながら省察できる教員を養成します。

【地域文化学科】

地域活性化に貢献する人材を養成します。

●地域社会コース

法学、政治学、経済学、経営学、社会学などの社会科学を軸にしながら、地理学、環境科学、食健康学、住環境学や情報科学も併せて学べます。さらに室内外での授業を通じて得た知識や技能を用いて、総合的かつ多角的に地域社会をとらえる能力の取得を目指します。

●国際文化コース

日本を含むアジアと欧米の言語・文化について、文学・歴史学・哲学・芸術学・言語学などの人文科学的な視座から学ぶことができます。体系的な外国語教育プログラム(英・独・仏・露・中国・朝鮮語)や海外研修も活用しながら、国際社会の多様なあり方を幅広く理解した上で、その知見を地域文化の活性化につなげられる能力の修得を目指します。

●心理実践コース

心理学に必要な理論や実践、統計法、面接法などについて、基礎から応用までを体系的に学べます。さらに学んだ知識や技能を用いて、地域の問題や課題を考え、様々な活動や調査研究が行える能力の獲得を目指します。



地域の自治体や生産者との連携・協働(地域交流市)



海外研修(ロシア)



箱庭療法の実習
(臨床心理検定演習Ⅰ)

医学部

医学部は、豊かな教養に支えられた人間性、学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決力を養い、医学・健康科学に対する充分な理解のもとに、人々の健康と福祉に貢献できる国際的視野を備えた人材を育みます。卒業後は、臨床現場で医療人として活躍する道のほか、大学院に進学し研究者や教育者をはじめとする医学医療の高度な専門家を目指す道が開かれています。

■学部の構成(2学科)

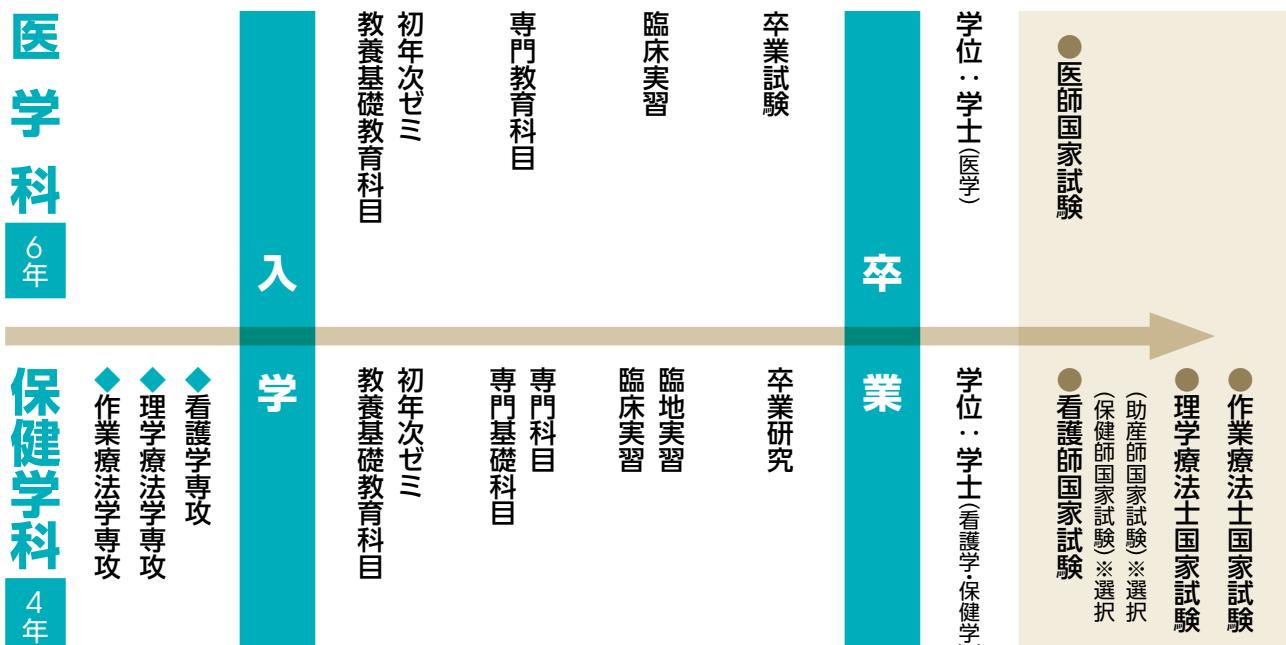
【医学科】

医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけた人材を養成します。

【保健学科】

看護学・理学療法学・作業療法学の3専攻6講座を設けており、医療専門職（看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士）を養成します。

医学科	大学院所属の教員が教育を担当する。	
保健学科	専攻	教育担当組織
	看護学	●基礎看護学講座 ●臨床看護学講座 ●母子看護学講座 ●地域生活支援看護学講座 ●理学療法学講座 ●作業療法学講座
	理学療法学	
	作業療法学	



理工学部

理工学部は、「理」に裏打ちされた専門能力と高い倫理性を持ち、学際分野にも目を向けられる、総合力で日本や地域に貢献できる人材の育成に力を注ぎます。1・2年次では理学に関する教育を徹底して行い、3・4年次ではその知識を専門という場で活用しながら身につけていきます。自ら課題を発見でき、未知の分野の課題に対しても幅広い視野から、柔軟に解決できる能力を修得させる学士課程教育を実施します。

■学部の構成(4学科)

【生命科学科】

医療、食料、環境など、ライフサイエンスに関連するさまざまな課題に挑戦する研究者・技術者を育成します。

●生命科学コース

多様な生命現象を、生体を構成する分子レベル、個々の細胞や個体レベル、生物の集団レベルで解明することについて学びます。

【物質科学科】

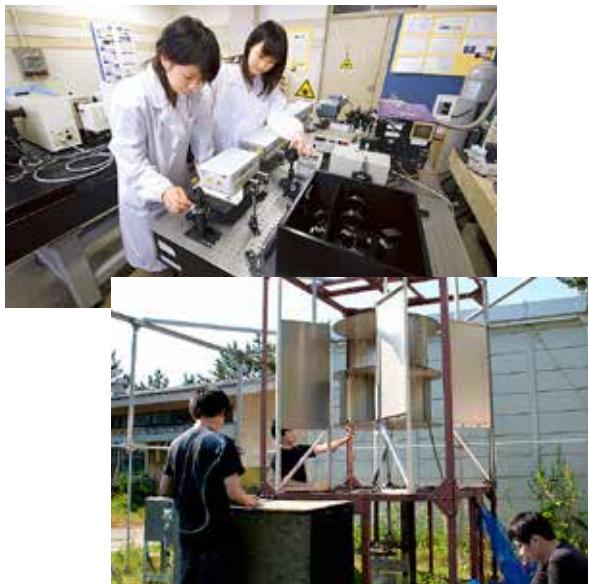
先端機能材料や化学プロセスに携わる研究者・技術者を育成します。

●応用化学コース

無機材料、有機材料、エネルギーに関連した化学工学からバイオプロセスまで幅広い化学の専門分野を学びます。

●材料理工学コース

固体物理学、固体化学、金属材料学、セラミック材料学を中心として基礎科学から材料の工学的応用までの幅広い分野について学びます。



【数理・電気電子情報学科】

数学・物理から電気・電子、情報通信の各分野をリードする多彩な人材を育成します。

●数理科学コース

代数学・幾何学・解析学等の数学、量子力学等の理論物理学、AIを含むコンピュータサイエンスを中心とする数理科学について幅広く学びます。

●電気電子工学コース

電磁気学・電気回路などの基礎科目と、電気エネルギー、電子デバイス・材料、情報・通信、計測制御・システムなどの幅広い専門分野から自分で興味のある科目を選択して学びます。

●人間情報工学コース

ヒューマンコンピュータインタラクション、福祉情報工学、画像解析学、情報通信とネットワークを中心として、コンピュータサイエンスを基礎とした高度な応用技術を学びます。

【システムデザイン工学科】

新しいものづくりができる実践的な技術者を育成します。

●機械工学コース

材料、熱流体、制御、製図など、あらゆる産業を支える機械工学の基礎分野に加え、医用生体工学、ロボット工学、流体機械などで応用分野を学びます。

●創造生産工学コース

設計工学、創造製作学、電気電子回路、システム制御工学、航空宇宙推進工学、プロジェクト実践研究を中心として、工学分野について幅広く学びます。

●土木環境工学コース

構造設計学、建設材料学、地盤工学、水理学などを中心として、安全・安心・快適な地域環境を創造・保全する技術について学びます。

■通信教育講座

秋田大学理工学部には、国立大学法人唯一の「社会通信教育講座」があります。昭和23年の開講以来、伝統と歴史を背景に、約1,900名を超える修了生を社会に輩出しています。

科学技術に関する教養的な知識を得るために一般科学技術コースと、資源系、材料系、電気電子系の基礎及び専門を学べるコースが用意されています。

大学院

国際資源学研究科

国際資源学研究科は、資源循環型社会の実現のため資源地球科学分野および資源開発環境学分野に関する高度な知識と専門性に裏付けられた最先端の教育・研究を進めています。地球科学から資源開発、環境保全に至る広範な知識を修得し、グローバルリーダーとして活躍できる人材を養成します。



博士前期課程

資源地球科学専攻
資源開発環境学専攻

博士後期課程

資源学専攻

博士課程リーディングプログラム
レアメタル等資源ニューフロンティア特別教育コース
(5年一貫博士課程[コース])

地球資源コース
資源開発素材コース

教育学研究科

教育学研究科は、理論と実践の往還を通じて現場の課題を解決し、実践知の継承と創造に取り組む意欲と高度な力量を有する初等中等教員の養成と、教員や学校等を支援して地域の発展に貢献できる高度専門職業人の養成を目的としています。本研究科には、教職実践専攻(教職大学院)と心理教育実践専攻(修士課程)の2専攻があります。



教職大学院(専門職学位課程)

教職実践専攻
学校マネジメントコース
カリキュラム・授業開発コース
発達教育・特別支援教育コース

修士課程

心理教育実践専攻
心理教育実践コース

医学系研究科

医学系研究科は、人類の健康・福祉の発展に寄与する医学・医療・生命科学の最先端研究を推進できる国際的視野を備えた優れた研究者・高度専門医療人を育成することを目的としています。



修士課程

医科学専攻

博士前期課程・博士後期課程

保健学専攻	博士 前期課程	看護学領域 リハビリテーション科学領域
	博士 後期課程	女性・小児発達支援科学分野 生活機能・健康行動支援科学分野

博士課程

医学専攻
病態制御医学系 腫瘍制御医学系 機能展開医学系
社会環境医学系 臨床教育協力部門

理工学研究科

理工学研究科は、地域産業を担う高度な専門的技術者・研究者、地域に根ざしたグローバルな人材、国際的な視野をもって地域の産業を自ら生み出す挑戦者、これからの中堅社会でのイノベーションを担う人材を養成するとともに、地域産業・地方行政と連携することによって地方創生を推進することを目的としています。



博士前期課程

生命科学専攻	生命科学コース
物質科学専攻	応用化学コース 材料理工学コース
数理・電気電子情報学専攻	数理科学コース 電気電子工学コース 人間情報工学コース
システムデザイン工学専攻	機械工学コース 創造生産工学コース 土木環境工学コース
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	

博士後期課程

総合理工学専攻
生命科学領域 物質科学領域
数理・電気電子情報学領域
システムデザイン工学領域

大

附属図書館

学

医学部附属病院

国際資源学研究科附属鉱業博物館

附属学校園及び教育研究施設等

- 附属幼稚園 ○附属小学校 ○附属中学校 ○附属特別支援学校
- 附属教育実践研究支援センター ○附属鉱業博物館
- 附属病院 ○附属病院シミュレーション教育センター
- 附属地域包括ケア・介護予防研修センター
- 附属革新材料研究センター
- 附属ものづくり創造工学センター ○附属地域防災力研究センター

施

学内共同教育研究施設

- 生体情報研究センター ○情報統括センター
- バイオサイエンス教育・研究サポートセンター ○放射性同位元素センター ○環境安全センター
- 产学連携推進機構 ○国際資源学教育研究センター ○地方創生センター
- 高齢者医療先端研究センター

センター

- 評価・IRセンター ○教育推進総合センター ○学生支援総合センター
- 高大接続センター ○教員免許状更新講習推進センター ○国際交流センター

技術組織

- 総合技術部

福利厚生施設等

- 保健管理センター
- 大学会館(クレール)〈手形キャンパス〉 ○本道会館(メディコ)〈本道キャンパス〉
- 学生寮 ○国際交流会館 ○留学生会館

体育施設

- 陸上競技場 ○野球場 ○球技場 ○ハンドボール場 ○大体育館 ○小体育館
- 柔剣道場(武道場) ○弓道場 ○テニスコート ○プール(25m) ○運動場

設

東京サテライト

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

インフォメーションセンター

附属図書館

University Library



中央図書館(正面玄関)

●附属図書館は中央図書館(手形キャンパス)と医学図書館(本道キャンパス)からなり、図書・雑誌・視聴覚資料・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と提供を行っています。

●蔵書冊数 中央図書館:429千冊 医学図書館:111千冊

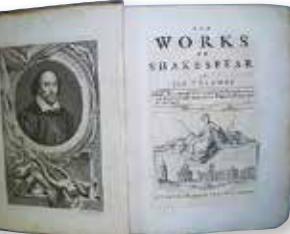
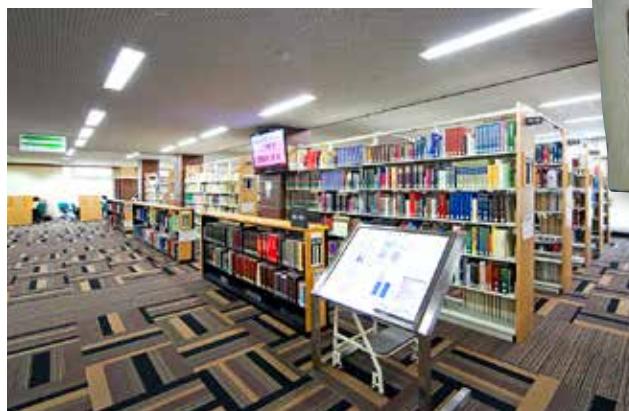
〈開館時間〉

区分	授業期間	長期休業期間
平 日	8:30~22:00	8:30~17:00
土・日・祝	12:00~18:00	休 館

●附属図書館は学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。学生のアクティブ・ラーニングを実現する新しい学びの場としてコモンズ・グループ学習室が整備されています。また、地域に開かれた図書館として、一般の方にも開放しており、閲覧・貸出サービスをご利用いただくことができます。

〈サービス内容〉

- 閲覧
- 貸出・予約
- 文献複写
- レファレンス
- 蔵書検索
- 各種データベース
- PC等の機器利用



特別コレクション。
18世紀に出版された
シェークスピア全集等を
所蔵しています

中央図書館閲覧フロア



中央図書館ラウンジ

中央図書館コモンズ



医学図書館コモンズ

●詳細についてのお問い合わせは

〈中央図書館・利用サービス担当〉

TEL.018-889-2279 E-mail : libriyo@jimu.akita-u.ac.jp

〈医学図書館〉

TEL.018-884-6052 E-mail : ibun@jimu.akita-u.ac.jp

〈附属図書館ホームページ〉

<https://www.lib.akita-u.ac.jp/top/>

医学部附属病院

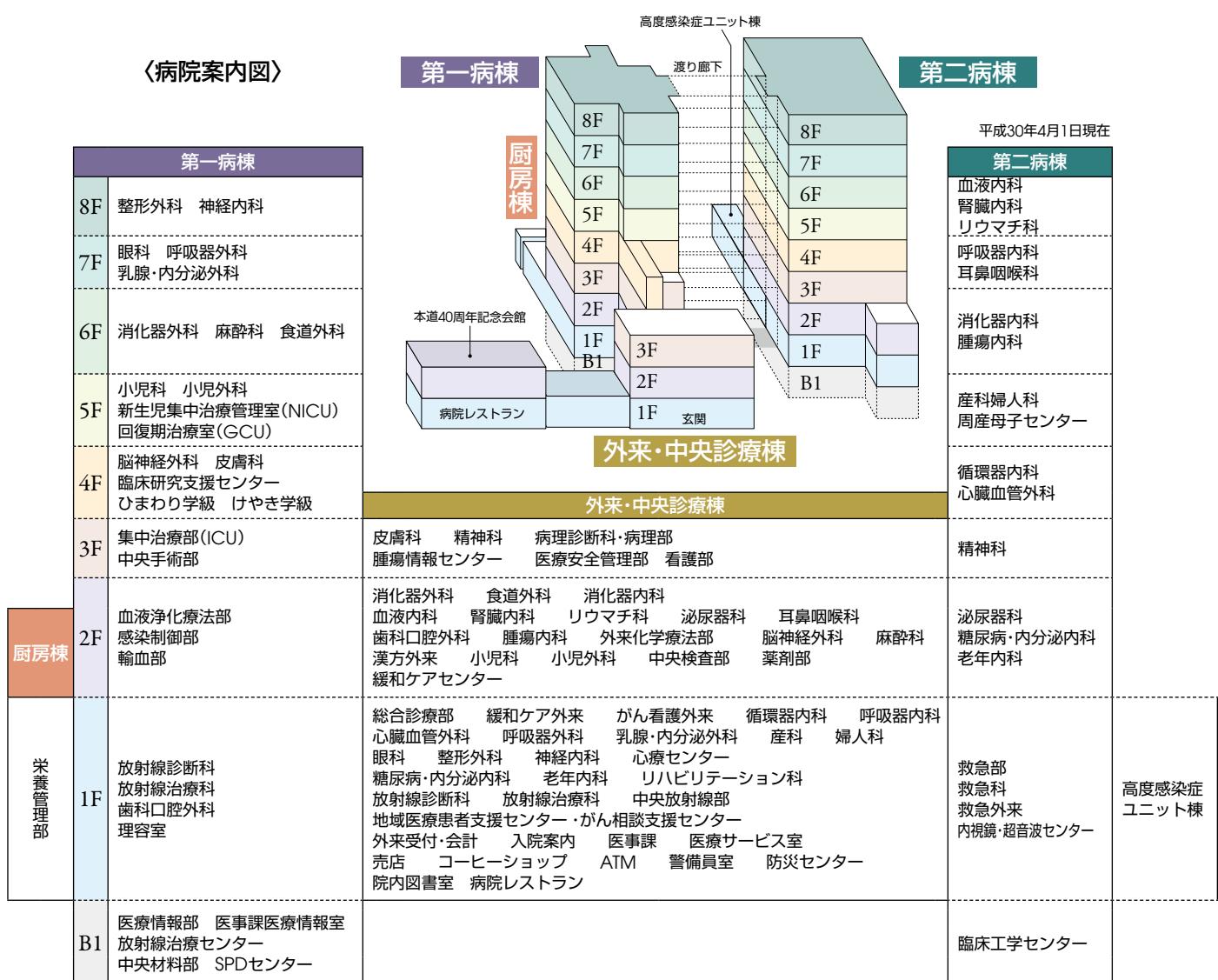


医学部附属病院(正面)

医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成6年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することをとおして、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心としての役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

〈病院案内図〉

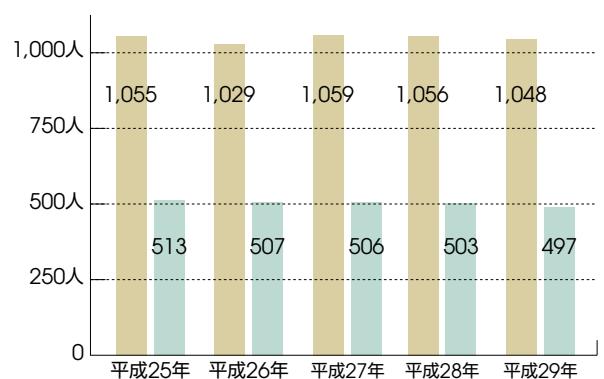


〈診療科別入院及び外来患者数〉

平成29年度

区分	入 院		外 来	
	延患者数	一日当平均患者数	延患者数	一日当平均患者数
消化器内科	11,431	31	19,987	82
神経内科	2,578	7	5,026	21
循環器内科	10,984	30	18,180	75
呼吸器内科	6,076	17	6,546	27
血液内科	11,031	30	6,265	26
腎臓内科	1,138	3	2,216	9
リウマチ科	1,492	4	6,692	27
糖尿病・内分泌内科	3,395	9	16,008	66
老年内科	0	0	0	0
消化器外科	8,903	24	4,684	19
呼吸器外科	5,595	15	2,668	11
食道外科	6,891	19	2,377	10
乳腺・内分泌外科	1,793	5	5,187	21
心臓血管外科	8,741	24	1,819	7
脳神経外科	9,368	26	7,139	29
小児外科	1,382	4	1,730	7
小児科	8,469	23	8,968	37
産科	6,004	16	4,827	20
婦人科	4,848	13	13,541	55
精神科	9,445	26	18,349	75
整形外科	13,540	37	15,006	62
皮膚科	5,802	16	18,266	75
泌尿器科	13,111	36	14,754	60
眼科	6,861	19	18,272	75
耳鼻咽喉科	11,377	31	12,936	53
放射線診断科	136	0	1,288	5
放射線治療科	2,648	7	4,129	17
麻酔科	0	0	1,142	5
リハビリテーション科	0	0	0	0
腫瘍内科	4,138	11	2,533	10
救急科	701	2	2,839	12
病理診断科	0	0	0	0
歯科口腔外科	3,528	10	12,399	51
計	181,406	497	255,773	1,048

〈年度別1日平均患者数〉



〈中央診療施設等〉

- 中央検査部 ●中央手術部 ●中央放射線部
- 中央材料部 ●集中治療部 ●救急部 ●輸血部
- リハビリテーション部 ●医療情報部
- 血液浄化療法部 ●中央病歴部
- 周産母子センター ●病理部 ●総合診療部
- 臨床研究支援センター ●臨床工学センター
- 移植検査センター ●総合臨床教育研修センター
- 内視鏡・超音波センター ●遺伝子医療部
- 腫瘍情報センター
- 地域医療患者支援センター・がん相談支援センター
- 化学療法部 ●緩和ケアセンター
- 心療センター ●栄養管理部 ●肝疾患相談センター
- 腎疾患先端医療センター

- 医療安全管理部 ●感染制御部 ●薬剤部 ●看護部



ヘリポート及び立体駐車場

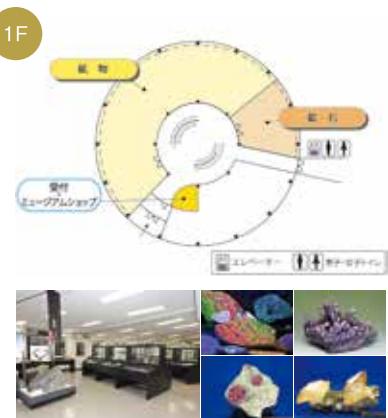
国際資源学研究科附属鉱業博物館 Mineral Industry Museum



鉱業博物館は、秋田大学の研究活動において収集された、地球と資源に関する様々な分野の資料や標本を展示・保管している国際資源学研究科の附属施設です。

その沿革は、鉱山技術者養成のため1910年に設立された秋田鉱山専門学校の列品室にはじまります。その後、新制大学発足当時の鉱山博物館を経て1961年に現在の建物が建設され、鉱業博物館となりました。

常時公開されている展示棟では、様々な色と形の鉱物・鉱石、珍しい岩石や化石を多数展示し、地球の歴史や資源の生成について学ぶとともに、鉱山設備に関連した実機と多数の精密模型から、資源開発の流れと鉱山技術をわかりやすく解説しています。また、期間限定の特別展や連携展、開放講座を通して、大学における最新の研究や幅広い学術分野の成果を紹介しています。



1階は、鉱物と鉱石を展示しています。ここに展示された標本は秋田鉱山専門学校設立以来のスタッフや学生、OBらが収集したり、当時稼行していた国内の多くの鉱山から寄贈された標本が母体になっています。これに加え、国内外の研究機関や収集家の協力を得て、現在、分類展示では国内最大規模である約500種2200点におよぶ国内外で産出した良質で貴重な標本を見ることができます。



2階は「地球の構成と歴史」について、隕石、岩石、地層、化石の標本を展示しています。展示室に入ると「太陽系の中の地球」「岩石」「地球表層の諸現象」「秋田の生い立ち」「地球生命史」の5つの展示コーナーがあります。私たちの地球はどのような物質からでき、どのような現象が起きていたのか、生命はいつごろ誕生し、どのように進化したのかについて、多数の標本とパネル、そしてツールを利用して読み解くことができます。



3階は、「資源開発」についての展示です。資源の開発技術は、多岐にわたっていますので、当館では、資源開発の流れを「探鉱」「採鉱」「採油」「選鉱」「製錬」の4つの工程に分類し、鉱物の探査から金属の製造まで、それぞれを独立したコーナーとして展示しています。この他にも、「鉱物資源の分布」「鉱山の保安技術」「自然エネルギー」「秋田の鉱山史」の展示を設け、鉱山技術の全容とその変遷が学べるようになっています。

ご利用案内

- 開館時間: 9:00~16:00
- 休館日: 年末年始(12月26日~翌年1月5日)
12月~2月の日曜日と祝日
- 入館料: 大人100円／高校生以下無料
- 無料館内案内: サイエンスボランティアによる館内案内を行っています。
(一週間前まで要予約)



Googleストリートビューサービスにて鉱業博物館内を公開しております。館内の1階から3階までの展示棟内を、高精密な360度のパノラマ写真で見渡せるようになりました。パソコンやスマートフォンの画面から簡単に見渡せることができますので、館内のバーチャル体験や、ご見学前の下見などにご活用ください。Googleマップで、「鉱業博物館」と検索していただくか、こちらのQRコードからご覧いただくことができます。



附属学校園及び教育研究施設等

Affiliated School
Facilities for Education
and Research



〈教育文化学部〉

●附属学校園



〈教育文化学部〉

●附属教育実践研究支援センター

【施設目的】

学習環境及び教育臨床等の教育実践に関する総合的研究

【研究部門等】

学校教育研究部門、教師発達研究部門、臨床心理学部門、
学校連携推進室、教職キャリア支援室、臨床心理相談室

平成30年5月1日現在								
区分		総定員	学級数	現 員				
附属幼稚園	3年保育			1年	2年	3年	4年	5年
附属小学校		594	18	96	94	91	93	96
附属中学校		464	12	144	145	152	—	441
附属 特別支援学校	小学部	18	3	5	6	—	5	16
	中学部	18	3	6	7	6	—	19
	高等部	24	3	8	10	8	—	26
								88

〈国際資源学研究科〉

●附属鉱業博物館

【施設目的】

- 鉱業に関する教育、研究及び調査を行う
- 鉱業関係の博物館資料の収集、保管及び展示

- 標本資料／約20,000点

- 公開標本／約3,300点



〈医学部〉

●附属病院シミュレーション教育センター

【施設目的】

秋田県内医療人の更なるスキルアップと質の高い専門医の養成に繋げ、医学シミュレーション教育が秋田県の医療再生の礎となるよう、秋田県と秋田大学の協同によって開設

- 1階:TVセミナー室、画像診断学習室
- 2階:緊急処置ラボ、臨床基本手技ラボ
- 3階:外科研修室、外科手技ラボ、産婦人科手技ラボ、臨床専門手技ラボ

〈医学系研究科〉

●附属地域包括ケア・介護予防研修センター

【施設目的】

高齢化率全国1位の秋田県における地域包括ケアシステム(自分が望む場で自分らしく最後まで暮らせるような地域のケア体制)構築に向けて、大学の持つ教育・研究・地域貢献機能を用いて参与し貢献する。

【センター活動内容】

看護職、介護職、ケアマネジャーなどを対象とした、教育活動としての現任教育プログラムの開講、専門職や地域住民を対象とした講演会の開催(28年度)。地域貢献として認知症サポーター養成の出前講座の開催、暮らしの保健室開設(27年度)など。



〈理工学研究科〉

●附属地域防災力研究センター

【施設目的】

自然災害の防止・軽減に資する研究を推進とともに、地域の防災・減災に関する研究と支援等を通して、安全・安心な地域社会の形成に貢献する

【研究部門等】

地震災害分野、津波災害分野、河川災害分野、斜面災害分野、火山災害分野、情報・計画分野



〈理工学研究科〉

●附属ものづくり創造工学センター

【施設目的】

ものづくりに関する実践的教育の推進と創造性豊かなエンジニアの育成を通して地域社会へ貢献する

【センター活動内容】

学生自主プロジェクト、子どもものづくり教室、ライセンス講習会、テクノキャリアゼミなど

学内共同教育研究施設



●生体情報研究センター

【設置目的等】

脂質、タンパク質、核酸等の生体情報分子に関する特色ある研究活動の実施、国内外の関連機関と有機的な連携、ならびに国民との科学・技術対話の環境整備を行い、本学発の研究成果を継続的に地域と世界に発信する。



●情報統括センター

【設備等】

- 教育用PC(約400台)：PC実習室1,2,4、PC実習室A/B、本道PC実習室、グループ学習コーナー、スキャナーコーナー、多言語コーナー、中央図書館、医学図書館
- 情報サービス：Webメール、大判プリンタ、大規模演算サーバ、仮想サーバホスティング
- 情報ネットワーク
有線LAN(フロアスイッチまで1～4Gbps)、無線LAN、学外接続ネットワーク(20Gbps)

●産学連携推進機構

【設置目的等】

民間等外部の機関との共同研究を推進することにより、秋田大学の教育・研究の進展を図るとともに、研究成果の知的財産化及び知的財産の社会還元を促進し、社会における技術開発の振興及び技術発展に寄与する。

●国際資源学教育研究センター

【設置目的等】

国際的視野を持つ高度資源開発人材の養成と我が国の資源セキュリティ及び安定供給体制の確立に貢献するとともに、国際資源人材ネットワークを通して一層の国際交流及び国際貢献を図る。

●高齢者医療先端研究センター

【設置目的等】

高齢者医療等に関する体制充実を図ることにより、認知症及び地域社会学の知見を踏まえた高齢化社会の学際的研究と高齢者医療の先端的研究を推進し、地域医療の向上と長寿・健康教育研究の発展に寄与することを目的とする。



●バイオサイエンス教育・研究サポートセンター

【設備等】

- 動物実験部門：【飼育設備】マウス、ラット、モルモット、ウサギ、ネコ、イヌ、ブタなどに対応【特殊実験設備】感染動物実験室、ケミカルハザード実験室など【解析機器】超音波イメージングシステム、in vivo 発光・蛍光イメージングシステム、X線テレビシス템など【研究支援業務】生殖工学的技術支援(凍結保存、個体作製)、遺伝子改変動物の作出、動物実験手技の指導など
- 放射性同位元素部門：【設備】サベイメータ、液体シンチレーションカウンター、スキャナータイプ画像解析装置など【使用承認核種】³²P、³H、¹²⁵Iなど15核種【実験サポート体制】RI業務従事者の実験を部門職員が受託するサービス有り(応相談)

- 分子医学部門：【設備】次世代シーケンサー、共焦点レーザー顕微鏡、透過型電子顕微鏡、フローサイトメーター、LC/MS装置、遠心機各種、分光光度計類【受託】組織標本作製、遺伝子解析、電頭標本作製、細胞分取、質量分析
- 教育研究連携部門



●放射性同位元素センター

【設備等】

- 非密封線源実験エリア：−10°C及び4°C低温実験室：オークリッジフード3基及び安全キャビネット1基、液体シンチレーションカウンター、トリチウムガス計測・実験装置、各種スケーラー、サーベイメーター、プレートアナライザー
- 密封線源実験エリア：マルチチャンネルγ線スペクトルメーター、高速液体クロマトグラフ質量分析装置、イメージアナライザー、水平型X線回折装置

16種類の非密封線源及び5種類の密封線源が使用可能



●環境安全センター

【設備等】

- 廃液処理棟：無機系廃液－フェライト化処理、有機系廃液／有害固体廃棄物－噴霧燃焼／焼却処理、水銀・シアン系廃液－酸化分解・吸着処理、フッ素・リン酸系廃液－石灰化処理、COD廃液－フェントン処理
- 実験・分析棟：ガスクロマトグラフ／質量分析計、ガスクロマトグラフ、原子吸光光度計、液体クロマトグラフ、X線分析装置、その他必要機器



●地方創生センター1号館

【設備等】(センター内設置の秋田産学官共同研究拠点センター導入機器)
超純水製造装置、ドラフトチャンバー、マイクロウェーブ試料前処理システム、超高分解能電界放射型走査型電子顕微鏡、炭素・水素・窒素・硫黄・酸素全自動分析装置、フレーム/ファーネス高分解能連続光源原子吸光分析装置、元素分析装置、高分解能核磁気共鳴スペクトル装置(600MHz)、X線光電子分光分析装置、マイクロフォーカスX線CT透視装置、水銀ボロシメータ、超高速液体クロマトグラフシステム、光散乱GPC分子量測定装置、テラヘルツ分光測定装置、バイポーラ電源、活性汚泥処理装置、スプレードライヤ装置、比表面積・細孔径分布測定装置、触媒分析装置、リアルタイムPCRシステム、マルチラベルカウンター、回転式粘度計、四重極・飛行時間型MS/MS分析システム、ガス吸着量測定装置、モジュール式電気化学測定システム、共焦点レーザ走査型顕微鏡、マトリックス支援レーザ脱離イオン化法飛行時間型質量分析装置、バイオクリーンベンチ

●地方創生センター

【設置目的等】

地方創生に取り組む地(知)の拠点大学として、地域との協働による地域振興策の取組及び地域の防災等に関する研究・支援並びに地域の産業を成長させる研究を推進させ、もって地域を担う人材育成を推進し、地域の産業振興と活性化に貢献する。

●地方創生センター2号館

【設備等】

- 新リサイクル技術・評価システム:粒子径・表面電位解析装置、イオンクロマトグラフ、形状測定マイクロスコープ、走査型プローブ顕微鏡、ICP発光分光分析装置、示差熱天秤、ディスク型手動粉碎機、ロール型磁選機、レーザーデータ電位計、エリーズ非鉄金属選別器、真空アーケ溶解炉、蛍光X線分光分析装置、金属分散度測定装置、空気テーブル、湿式高磁力磁選機など
- 高度機能素材設計・評価システム:電界放射型走査電子顕微鏡、多元合金膜作製装置、走査電子顕微鏡、高真空型走査プローブ顕微鏡、高感度磁化測定装置、高真空熱処理装置、薄膜X線回折装置、粉末X線回折装置、磁気記憶装置材料分析・評価システム、ナノ粒子粒径解析/ゼータ電位計、液体窒素製造装置、表面粗さ測定装置など

センター

Center for Education and Research

設置目的等	
評価・IRセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援 ● 評価とそのシステムについての研究・開発 ● 学内外の各種情報の活用・分析
教育推進総合センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進 ● 教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発による改善・充実
学生支援総合センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 種々の生活相談及び授業料免除や奨学生推薦等の生活支援 ● 大学祭等の課外活動支援及び課外活動施設の整備・充実の推進 ● 就職ガイダンスの実施及び就職情報提供、就職相談等の就職活動支援
高大接続センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校と大学の学びの接続 ● アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜方法の研究・開発 ● 入学希望者に対する広報活動の企画・立案
教員免許状更新講習推進センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員免許状更新講習の企画・実施 ● 秋田県教育委員会・県内大学等諸機関との連携
国際交流センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際交流に関する企画・広報活動 ● 国際学術交流の推進 ● 国際教育交流の推進

技術組織

Technological Organization

設置目的等	
総合技術部	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育研究活動の技術支援を全学的に推進 ● 技術系職員が持つ専門技術を本学の共通の財産として継承・発展させ、その能力及び資質等の向上を図るとともに優れた人材を確保

福利厚生施設等

Welfare Facilities

施 設	主な設備内容			
保健管理センター	学生相談室、休養室、診察室、処置室、エックス線室、待合ホール、聴力検査室、心電図室、カウンセリング室、検査室、所長室、准教授室、事務室、倉庫、多目的W.C.			
大学会館(クレール) 〈手形キャンパス〉	<ul style="list-style-type: none"> ● 1階／管理事務室、食堂、厨房、喫茶室、食品・弁当コーナー、アメニティーコーナー、アルバイトセンター、自販機コーナー、イベントホール ● 2階／研修室(1・2・3)、和室(あじさい・りんどう)、会議室、書籍・文具・旅行コーナー 			
本道会館(メディココ) 〈本道キャンパス〉	<ul style="list-style-type: none"> ● 1階／食堂、厨房、売店、事務室、倉庫 ● 2階／研修室、談話室、大会議室、小会議室、和室、物品庫 			
学 生 寮	区 分	手形寮(女子) (留学生除く)	本道寮(女子) (留学生除く)	西谷地寮(男子) (留学生含む)
	建物延面積	746m ²	1,076m ²	3,171m ²
	室 数	40室	31室	130室
	収容定員	40人	31人	130人
国際交流会館	<ul style="list-style-type: none"> ● 居 室／单身室(外国人留学生用28室、外国人研究者室5室)、家族室(外国人研究者用2室)、夫婦室(外国人研究者用3室) ● 管理関係／管理室、設備室、倉庫 ● 共用関係／多目的ホール、ミーティングルーム、洗濯室 			
留学生会館	<ul style="list-style-type: none"> ● 居室／单身室(27室)、夫婦室(3室) ● 管理関係／事務室、機械室、倉庫 ● 共用関係／談話室、和室、洗濯室 			



体育施設

Sports Facilities

施 設	面 積(m ²)			備 考
	手形地区	本道地区	保戸野地区	
陸上競技場	24,637		—	400m／6コース、メイン／8コース
野球場	20,378		—	—
球技場	陸上競技場 と併用	陸上競技場と併用	—	サッカー、ラグビー(本道地区はサッカー、ラグビー、アーチェリー、準硬式野球)
ハンドボール場		—	—	—
大体育馆	2,591	1,079	3,588	バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、バドミントン、柔道、剣道 等 (本道地区はバレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球、フットサル)
小体育馆	750	—	—	体操、卓球、空手道 等
柔剣道場(武道場)	—	—	373	柔道、剣道
弓道場	149	—	—	的場(44m ²)は含まない
テニスコート	(5面)3,238	(5面)3,614	—	—
プール(25m)	800	—	—	7コース
運動場	—	—	14,923	—



東京サテライト

Tokyo Satellite

受験生への情報提供を行うとともに、産学官連携の推進や首都圏での社会貢献活動を行うための拠点として「秋田大学東京サテライト」を設置しています。

〈業務紹介〉

1. 受験生への情報提供

- 入試説明会、各学校への情報の提供、訪問活動

2. 産学官連携活動の支援

- 共同研究、科学技術相談の窓口
- 学術情報、技術シーズの提供
- シンポジウム、学会、研究会などの学術会議の開催
- 研究者、研究成果の紹介

3. 社会貢献活動の支援

- 講演会、セミナーなどの開催

4. 就職活動の支援

- 企業からの求人の申込
- 在学生への就職情報の提供

5. 同窓会活動の支援

- 同窓会への大学情報などの提供

- 所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 606号室
- TEL 03-5440-9104(FAX兼用)
- ホームページ <http://www.akita-u.ac.jp/honbu/satellite/>



キャンパス・イノベーションセンター

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

秋田大学の県内への情報発信と、より密接な地域連携を目指して、横手市、北秋田市、男鹿市へそれぞれ分校を開設しています。

横手分校

〈平成21年8月5日開設〉

- 学生による「いぶりがっこ」の製造をはじめとする地域活動への学生参加など地域課題の解決に向けた取り組みを実施しています。
- 教師を目指す学生たちを対象とした「教育ミニミニ実習」「イングリッシュ・アドベンチャー」などの小中高大連携事業を推進しています。

連絡先

〒013-0036 横手市駅前町1-21
横手市交流センター Y²がらざ内

- TEL 0182-38-8304
- FAX 0182-32-4056

北秋田分校

〈平成22年11月17日開設〉

- 農薬と化学肥料を使わない昔ながらの農法で、作付けから収穫までの作業工程を一貫して行う「秋田大学オリジナル米『ほたるひめ』プロジェクト」事業を実施しています。
- 小中学生を対象とした科学教室を開催しています。

連絡先

〒018-3392 北秋田市花園町19-1
北秋田市役所総務部総務課総務班

- TEL 0186-62-1111
- FAX 0186-63-2586

男鹿なまはげ分校

〈平成25年9月30日開設〉

- 学生力を活用し、子どもたちへの自学自習支援や医学部訪問事業を行い、学力の底上げに取り組んでいます。
- 男鹿市高齢者の健康寿命の延伸を目指し、運動機能の維持向上に取り組んでいます。

連絡先

〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
男鹿市総務企画部 企画政策課

- TEL 0185-24-9126
- FAX 0185-23-2424

インフォメーションセンター

Information Center

秋田大学の教育・研究の取り組みや、常設展示として成田為三・南木佳士など著名な卒業生の業績や作品等を展示・紹介。また、学生や教職員による企画展も開催しています。

〈入館案内〉

- 開館時間／10:30～17:00
- 開館日／平日のみ(入館無料)



インフォメーションセンター外観



オープン
スペースの
様子

〈主な常設展示〉



なりた ためぞう
成田 為三

秋田県師範学校(教育文化学部の前身)出身で、「浜辺の歌」「秋田県民歌」など、300曲以上の優れた作品を世に残しています。本格的に作曲の勉強をしたのは、秋田県師範学校時代であることが研究により明らかにされています。



なぎ けいし
南木 佳士

秋田大学医学部の二期生である彼は、長野県佐久総合病院で医師を続けながら、作家活動を行っています。作品には、新設間もない秋田大学医学部を舞台に、医学部在学の4人の主人公が抱える悩みや葛藤などの青春群像を描いた「医学生成人」や、第100回芥川賞を受賞した「ダイヤモンドダスト」等があります。



まつだ ときこ
松田 解子

秋田県女子師範学校(教育文化学部の前身)出身の小説家で、数多くの作品を世に残しています。1966年、実母をモデルに荒川鉱山に生きた人々を描いた長編『おりん口伝』の連載を始め、この作品で第8回田村俊子賞(1968年)等を受賞しました。



あべ まさたつ
阿部 雅龍

工学資源学部出身の“夢を追う男”冒険家として活躍。大学在学時から自転車での南米縦断やアマゾン川いかだ下りなど、数々の冒険を成し遂げてきました。現在、秋田県出身の南極探検家白瀬謙(しらせのぶ)中尉と同じルートで挑む『単独無補給徒步・南極点到達』に向けて活動を続けています。

〈主な企画展〉



OBによる講演会



学生による企画展



サークル企画展

平成30年度 主な課外行事

Main Extracurricular Events (Academic Year of 2017)

今日歩大祭2018 (5月26日(土))

秋田大学体育会の伝統行事として行われ親しまれてきた「今日歩大会」が、今日歩の要素を保ちつつ、レクリエーションの要素も加えた「今日歩大祭」としてリニューアルしました。

手形キャンパスをスタートして、太平山リゾート公園まで14.5kmの道のりを歩いて向かい、昼食後にはレクリエーションで親睦を深めます。本学の学生・教職員のみが参加できる行事です。



(第69回)東北地区大学体育大会 (5月～11月)

東北地区的国・公・私立の48大学による体育大会で、各県分担し、男女合わせて14種目の競技が行われます。



サークルリーダー研修会 (9月下旬)

課外活動団体のリーダーを中心に日々の活動に必要な知識やAED(自動体外式除細動器)の取扱い方法を修得させるとともに、参加者相互の交流や討論を深めるため、毎年実施しています。



大学祭 (10月20日(土)・21日(日))

各学部間の交流、また学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として毎年実施し、学内外を問わず親しまれている行事です。



全学駅伝競走大会 (11月3日(土))

学生同士や、学生と教職員との交流を深め、スポーツマン精神を養うことを目的に、例年男女合わせて30チームほどが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。



※日程については、変更になる場合もあります。

資料編

- 沿革
- 歴代学長
- 運営組織
- 教育研究組織
- 事務組織
- 役職員
- 学生の定員・現員
- 入学志願者・入学状況
- 出身高校所在地別在学状況
- 卒業者・修了者数
- 学位授与数
- 卒業者等就職状況
- 平成28・29年度学生表彰(学業奨励金)受賞者
- 外国人留学生数
- 外国人研究員等
- 国際交流協定校
- 公開講座(平成29年度)
- 国内機関との連携・協力協定
- 役員数
- 教職員数
- 平成30年度予算
- 外部資金受入状況
- 平成29年度科学研究費助成事業採択状況
- 土地・建物
- 各連絡先・所在地一覧
- 手形地区施設配置図
- 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
- アクセス

沿

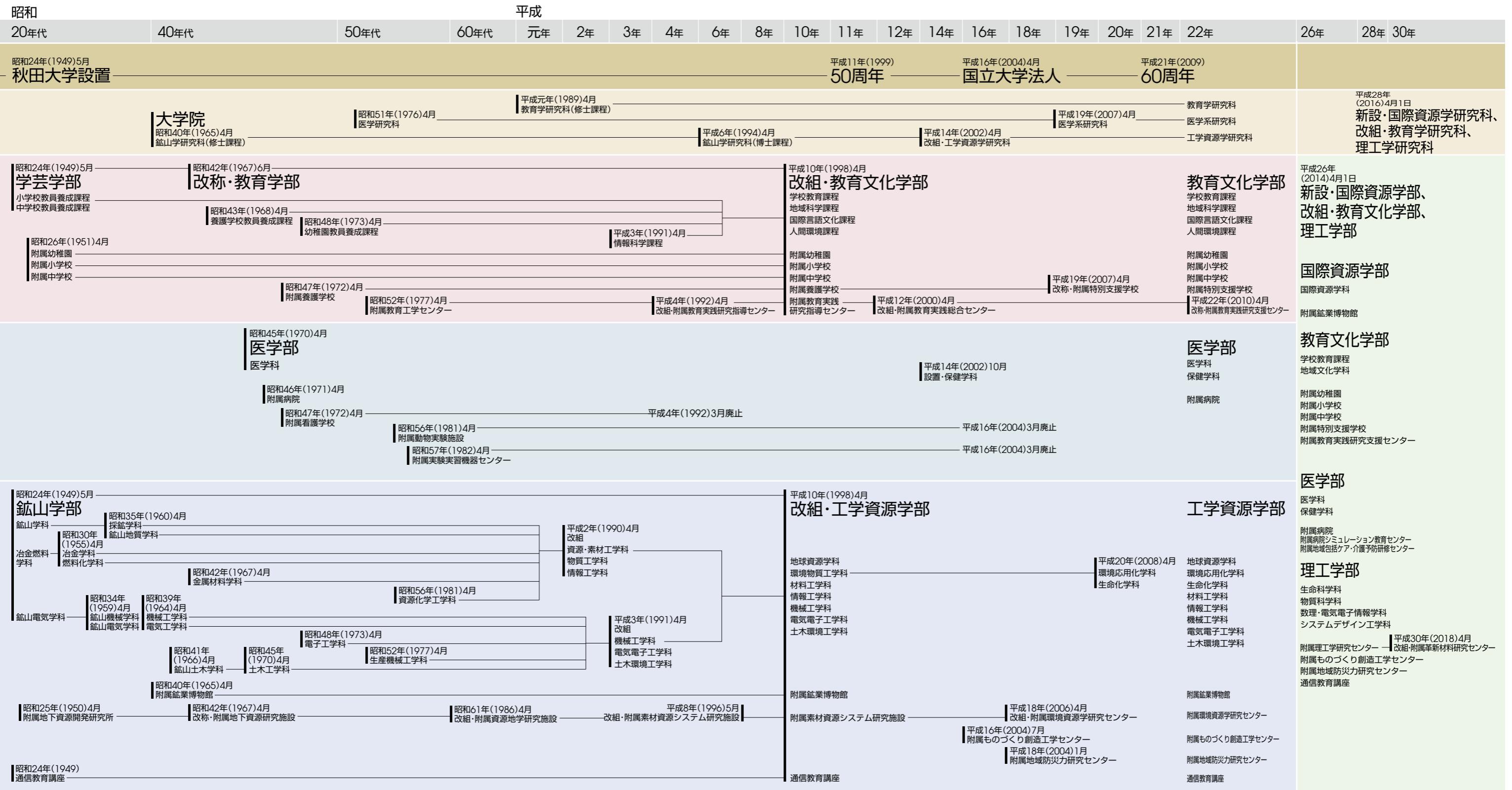
革

Historical Sketch



●百周年記念館(平成24年10月竣工)

工学資源学部創立100周年を記念し建造
秋田大学の前身である秋田鉱山専門学校の外観を再現



医療技術短期大学部

平成元年(1989)4月～平成19年(2007)3月

- 理学療法学科・作業療法学科
(平成2年(1990)4月分離増設)
- 【看護学科(平成元年(1989)10月)】

専攻科

- 鉱山学専攻科
(昭和29年(1954)4月～昭和40年(1965)3月)
- 教育専攻科
(昭和40年(1965)4月～平成元年(1989)3月)
- 特殊教育特別専攻科
(昭和55年(1980)4月～平成20年(2008)3月)

学内共同教育研究施設

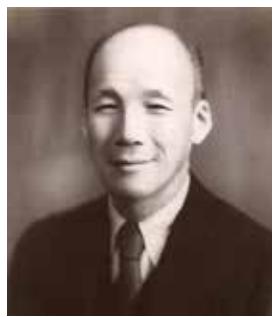
- 産学連携推進機構(平成19年(2007)11月)
【知的財産本部(平成16年(2004)4月)＋地域共同研究センター(平成5年(1993)4月)】
- 情報統括センター(平成27年(2015)4月)【情報処理センター(昭和64年(1989)1月)】
- バイオサイエンス教育・研究サポートセンター(平成28年(2016)4月)【バイオサイエンス教育・研究センター(平成16年(2004)4月)】
- 放射性同位元素センター(昭和47年(1974)6月)
- 環境安全センター(平成16年(2004)4月)
- 国際資源学教育研究センター(平成21年(2009)10月)
- 地方創生センター(平成28年(2016)4月)【地域創生センター(平成23年(2011)4月)＋ベンチャーアジテーションセンター(平成24年(2012)10月)】
- 生体情報研究センター(平成24年(2012)4月)
- 高齢者医療先端研究センター(平成30年(2018)1月)

センター

- 評価・IRセンター(平成29年(2017)4月)
【評価センター(平成16年(2004)4月)】
- 教育推進総合センター(平成16年(2004)4月)
- 高大接続センター(平成29年(2017)4月)
- 教員免許状更新講習推進センター(平成21(2009)4月)
- 学生支援総合センター(平成16年(2004)4月)
- 国際交流センター(平成20年(2008)2月)
【国際交流推進機構(平成16年(2004)4月)】
- ※社会貢献推進機構
(平成16年(2004)4月～平成21年(2009)3月)

- 附属図書館
(昭和24年(1949)5月)
- 保健管理センター
(昭和49年(1974)4月)
- 地(知)の拠点推進本部
(平成28年(2016)4月)

歴代学長



佐野 秀之助
(昭25.5.6～昭30.12.24)



渡邊 萬次郎
(昭31.3.1～昭41.2.28)



伊藤 泰一
(昭41.3.1～昭44.6.9)



渡邊 武男
(昭46.2.23～昭51.2.22)



九嶋 勝司
(昭51.2.23～昭56.2.22)



梅津 良之
(昭56.2.23～昭61.2.22)



渡部 美種
(昭61.2.23～平3.2.22)



新野 直吉
(平3.2.23～平8.2.22)



徳田 弘
(平8.2.23～平13.2.22)



三浦 亮
(平13.2.23～平20.3.31)



吉村 昇
(平20.4.1～平26.3.31)



澤田 賢一
(平26.4.1～平28.3.1)



山本 文雄
(平28.4.1～)

事務
取扱

剣木 亨弘
(昭24.5.31～昭24.7.30)

池田 謙三
(昭24.7.31～昭25.5.5)

五十嵐 勇
(昭30.12.25～昭31.2.29)

藤島 主殿
(昭44.6.10～昭46.2.22)

学長
代行

小川 信明
(平28.3.2～平28.3.31)

運営組織

Management Organization

経営協議会	
(15人)	Management Committee
経営に関する重要事項を審議	

学長
理事（総務・人事・情報・病院経営担当）
理事（教育・学生・地方創生・広報企画担当）
理事（財務・施設・環境担当）
理事（経営分析・企画担当）（非常勤）
医学部附属病院長
副学長（評価・IR担当）
学外委員（8人）

役員会	
(6人)	Board of Directors
経営、教学の両面にわたり、特定の重要事項について、学長の意思決定に先立ち議決	

学長
理事（総務・人事・情報・病院経営担当）
理事（研究・産学連携・国際交流・国際戦略担当）
理事（教育・学生・地方創生・広報企画担当）
理事（財務・施設・環境担当）
理事（経営分析・企画担当）（非常勤）

教育研究評議会	
(21人)	Education and Research Council
教育研究に関する重要事項を審議	

学長
理事（総務・人事・情報・病院経営担当）（兼）情報統括センター長
理事（研究・産学連携・国際交流・国際戦略担当）
理事（教育・学生・地方創生・広報企画担当）
副学長（評価・IR担当）
国際資源学研究科長
教育文化学部長
医学系研究科長
理工学研究科長
附属図書館長
医学部附属病院長
産学連携推進機構長
教育推進主管
各学部長等が推薦する当該学部等の教授

学長選考会議

(12人)
President Nomination Committee

経営協議会の学外委員で、経営協議会において選出された者（5人）

国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長／副学長（評価・IR担当）

理事（総務・人事・情報・病院経営担当）／理事（財務・施設・環境担当）

大学運営会議

(12人)

学長

理事（総務・人事・情報・病院経営担当）／理事（研究・産学連携・国際交流・国際戦略担当）

理事（教育・学生・地方創生・広報企画担当）／理事（財務・施設・環境担当）

副学長（評価・IR担当）

国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長／附属図書館長／医学部附属病院長

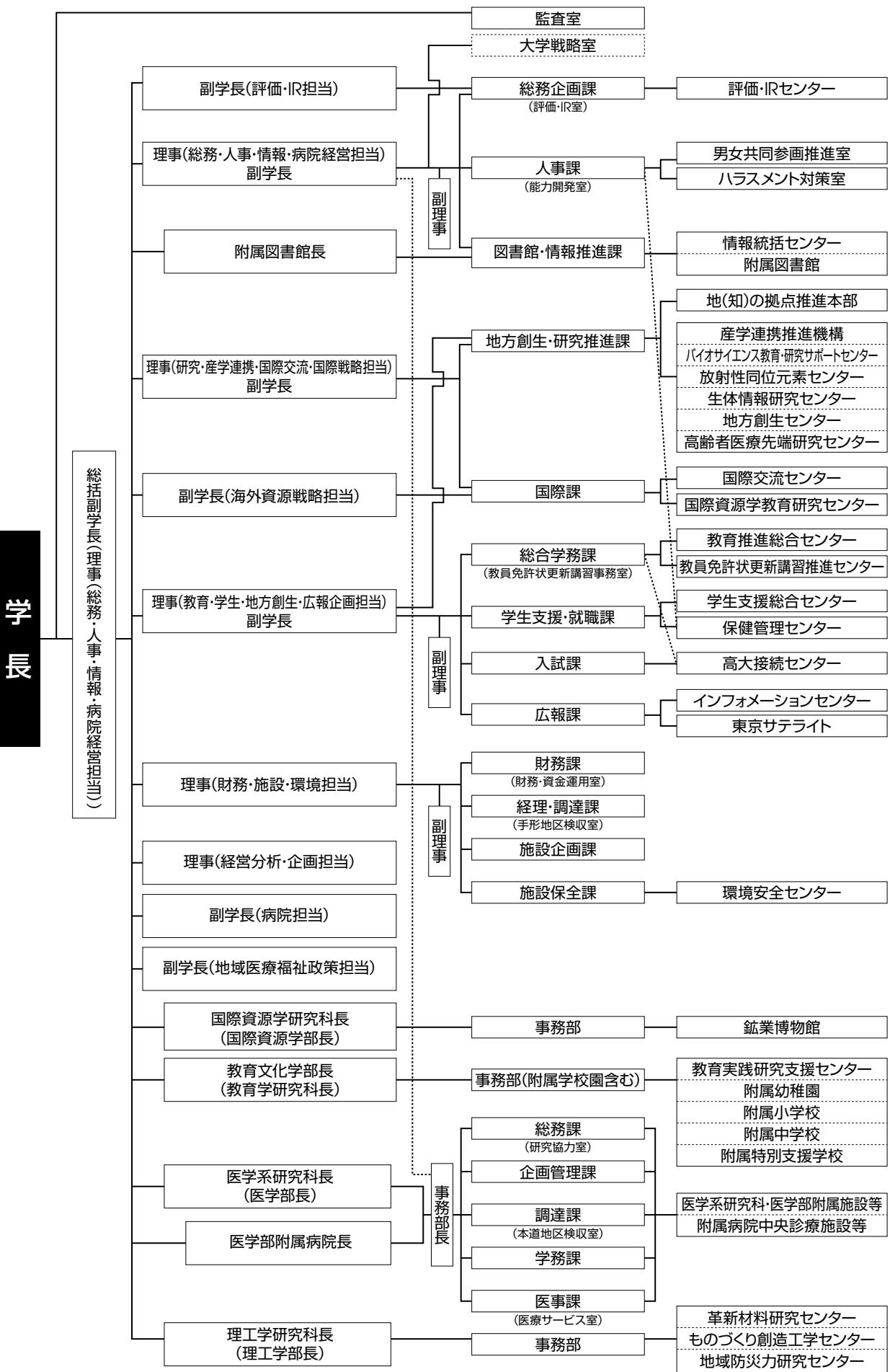
教育研究組織

Academic Organization



事務組織

Administrative Organization



役職員

Administrative Staff

役員等	
学長	山本 文雄
理事(総務・人事・情報・病院経営担当) (兼)総括副学長	近藤 克幸
理事(研究・産学連携・国際交流・国際戦略担当) (兼)副学長	小川 信明
理事(教育・学生・地方創生・広報企画担当) (兼)副学長	志立 正知
理事(財務・施設・環境担当)	金城 正浩
理事(経営分析・企画担当) (非常勤)	伊藤 兵一
監事	真鍋 雅文
監事(非常勤)	吉岡 順子
副学長(評価・IR担当)	上田 晴彦
副学長(海外資源戦略担当)	佐藤 時幸
副学長(病院担当)	羽渕 友則
副学長(地域医療福祉政策担当)	伊藤 宏

学長補佐	
学長補佐(ハラスマント担当)	水戸部 一孝
学長補佐(男女共同参画担当)	山名 裕子
学長補佐(産学連携担当)	長繩 明大
学長補佐(医理工連携担当)	島田 洋一
学長補佐(地域協働担当)	臼木 智昭
学長補佐(地域産業担当)	田島 克文
学長補佐(長寿・健康研究教育拠点担当)	伊藤 英晃

経営協議会	
学長	山本 文雄
理事(総務・人事・情報・病院経営担当)	近藤 克幸
理事(教育・学生・地方創生・広報企画担当)	志立 正知
理事(財務・施設・環境担当)	金城 正浩
理事(経営分析・企画担当)	伊藤 兵一
医学部附属病院長	羽渕 友則
副学長(評価・IR担当)	上田 晴彦
秋田魁新報社代表取締役社長	小笠原 直樹
秋田県医師会顧問	小山田 雅
東京国立博物館長	錢谷 真美
秋田銀行代表取締役頭取	新谷 明弘
東北大学名誉教授	吉本 高志
秋田県知事	佐竹 敬久
長崎大学名誉教授	片峰 茂
三菱ケミカル株式会社顧問	加賀 邦明

教育研究評議会	
学長	山本 文雄
理事(総務・人事・情報・病院経営担当) (兼)情報統括センター長	近藤 克幸
理事(研究・産学連携・国際交流・国際戦略担当)	小川 信明
理事(教育・学生・地方創生・広報企画担当)	志立 正知
副学長(評価・IR担当)	上田 晴彦
国際資源学研究科長	佐藤 時幸
教育文化学部長	佐藤 修司
医学系研究科長	尾野 恭一
理工学研究科長	山村 明弘
附属図書館長	今野 和彦
医学部附属病院長	羽渕 友則
産学連携推進機構長	長繩 明大
教育推進主管	後藤 猛
国際資源学研究科長推薦	大場 司
国際資源学研究科長推薦	繩田 浩志
教育文化学部長推薦	林 良雄
教育文化学部長推薦	佐々木 和貴
医学系研究科長推薦	南谷 佳弘
医学系研究科長推薦	安藤 秀明
理工学研究科長推薦	尾高 雅文
理工学研究科長推薦	田島 克文

大学戦略室	
室長	近藤 克幸

本部等	
副理事(総務担当)	大谷 智
副理事(教育・学生・入試担当) (兼)総合学務課長	高橋 正樹

平成30年5月1日現在

本部等	
副理事(財務・施設・環境担当)	田島 修
監査室長	太田 貞祐
総務企画課長	政田 真弥
人事課長(兼)能力開発室長	大川 卓男
図書館・情報推進課長	猿田 勝弘
地方創生・研究推進課長	大山 弘
国際課長	小野 憲一
学生支援・就職課長	稻葉 倫子
入試課長	藤原 孝
広報課長	高橋 紀夫
財務課長	戸島 隆造
経理・調達課長	榎 清幸
施設企画課長	橘 紀博
施設保全課長	田牧 貴教

センター・機構等	
産学連携推進機構長	長繩 明大
情報統括センター長	近藤 克幸
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター長	久場 敬司
放射性同位元素センター長	疋田 正喜
環境安全センター長	進藤 隆世志
国際資源学教育研究センター長	川村 洋平
生体情報研究センター長	石井 聰
地方創生センター長	志立 正知
高齢者医療先端研究センター長	大田 秀隆
評価・IRセンター長	上田 晴彦
教育推進総合センター長	志立 正知
学生支援総合センター長	志立 正知
高大接続センター長	志立 正知
教員免許状更新講習推進センター長	森 和彦
国際交流センター長	小川 信明
保健管理センター所長	伏見 雅人
地(知)の拠点推進本部長	山本 文雄
教育推進主管	後藤 猛

附属図書館	
館長	今野 和彦
医学部分館長	河谷 正仁

国際資源学研究科	
研究科長	佐藤 時幸
事務長	藤井 和明
附属鉱業博物館長	今井 忠男

教育文化学部	
学部長	佐藤 修司
事務長	柳谷 勉
附属教育実践研究支援センター長	佐藤 学
附属幼稚園長	奥山 順子
附属小学校長	成田 雅樹
附属中学校長	原 義彦
附属特別支援学校長	藤井 廉博

医学系研究科	
研究科長	尾野 恒一
附属病院長	羽渕 友則
附属地域包括ケア・介護予防研修センター長	中村 順子
事務部長	前島 一実
総務課長	脇元 直彦
企画管理課長	高橋 尚之
調達課長	針金 誠悦
学務課長	工藤 晃義
医事課長	柴田 広実

理工学研究科	
研究科長	山村 明弘
事務長	中井 正宏
附属革新材料研究センター長	寺境 光俊
附属ものづくり創造工学センター長	足立 高弘
附属地域防災力研究センター長	松富 英夫

学生の定員・現員

〈学部〉

学部	学科・課程	入学定員	収容定員	現 員						計
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
国際資源学部	国際資源学科	120	480	139	121	125	110			495
	小 計	120	480	139	121	125	110			495
教育文化学部	学校教育課程	110	440	112	113	131	122			478
	地域文化学科	100	400	103	103	111	105			422
[注] ※1:平成26年度から 学生募集停止	地域科学課程						2			2
	国際言語文化課程		※1				2			2
[注] ※1:平成26年度から 学生募集停止	人間環境課程					1	0			1
	小 計	210	840	215	216	243	231			905
医学部	医学科	⟨5⟩124	763	125	137	127	132	119	123	763
	保健学科	(14)106	452	111	124	115	111			461
小 計	⟨5⟩	(14)230	1,215	236	261	242	243	119	123	1,224
理 工 学 部	生命科学科	45	180	48	47	43	36			174
	物質科学科	110	440	134	109	122	98			463
小 計	数理・電気電子情報学科	120	480	143	129	149	130			551
	システムデザイン工学科	120	480	149	140	133	130			552
各学科共通		12	24							
	小 計	(12)395	1,604	474	425	447	394			1,740
工学資源学部	地球資源学科	※2					3			3
	環境物質工学科	※1					2			2
[注] ※1:平成20年度から 学生募集停止	環境応用化学科						1			1
	生命化学科						3			3
[注] ※2:平成26年度から 学生募集停止	材料工学科					1	0			1
	情報工学科					1	6			7
[注] ※2:平成26年度から 学生募集停止	機械工学科					1	1			2
	電気電子工学科					1	1			1
[注] ※2:平成26年度から 学生募集停止	土木環境工学科					1				1
	各学科共通					3	17			20
合 計		⟨5⟩(26)955	4,139	1,064	1,023	1,060	995	119	123	4,384

*()内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。 *⟨ ⟩内の数は2年次編入学定員を表し、外数である。

〈大学院〉

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員						計	
				博士前期課程		博士後期課程					
				1年次	2年次	1年次	2年次	3年次			
国際資源学 研究科	資源地球科学専攻	17	34	23	19					42	
	資源開発環境学専攻	23	46	34	17					51	
小 計		40	80	57	36					93	
	専 攻	入学定員	収容定員							計	
教育学研究科	資源学専攻	10	30	10	8	5				23	
	計	50	110							116	
研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員						計	
	教職実践専攻	20	40	22	17					39	
教育学研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員						計	
	心理教育実践専攻	6	12	4	5					9	
研究科	計	26	52							48	
研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員						計	
	医科学専攻	5	10	2	1					3	
医学系研究科	専 攻	入学定員	収容定員	博士前期課程	博士後期課程	1年次	2年次	3年次		計	
	保健学専攻	12	24	9	19					28	
小 計	保健学専攻	3	9	4	3	5				12	
	専 攻	入学定員	収容定員	博士後期課程	博士課程	1年次	2年次	3年次		計	
研究科	医学専攻	30	120	24	27	26	70			147	
	計	50	163							190	
研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員						計	
	生命科学専攻	15	30	17	14					31	
理 工 学 部	物質科学専攻	42	84	42	32					74	
	数理・電気電子情報学専攻	45	90	49	50					99	
小 計	システムデザイン工学科専攻	36	72	34	35					69	
	共同ライフサイクルデザイン工学科専攻	12	24	8	12					20	
研究科	小 計	150	300	150	143					293	
	専 攻	入学定員	収容定員	博士後期課程	博士課程	1年次	2年次	3年次		計	
研究科	総合理工学専攻	10	30	7	12	7				26	
	計	160	330							319	
研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員						計	
	地球資源学専攻	※2								2	
工学資源学 研究科	環境物質工学科専攻	※1								2	
	環境応用化学科専攻									2	
[注] ※1:平成24年度から 学生募集停止	生命科学専攻									1	
	材料工学科専攻									2	
[注] ※2:平成28年度から 学生募集停止	情報工学科専攻									5	
	機械工学科専攻									17	
[注] ※2:平成28年度から 学生募集停止	電気電子工学科専攻									19	
	土木環境工学科専攻									17	
[注] ※2:平成28年度から 学生募集停止	共同ライフサイクルデザイン工学科専攻									19	
	小 計									692	
合 計				286	655						

入学状況 志願者

出身高校所在地別在学状況

〈学部〉

区分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
国際資源学部	120	352	157	509	87	41	128	4.24
教育文化学部	210	509	741	1250	80	133	213	5.95
医学部	230	783	827	1610	100	132	232	7.00
理工学部	395	1850	389	2239	367	66	433	5.67

※外国人留学生を含まない(但し、国際資源学部の私費外国人留学生は含む)。編入生を含まない。

〈大学院〉

区分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
国際資源学研究科(博士前期課程)	40	56	7	63	46	6	52	1.58
国際資源学研究科(博士後期課程)	10	5	1	6	5	1	6	0.60
教育学研究科(専門職学位課程)	20	21	6	27	17	5	22	1.35
教育学研究科(修士課程)	6	2	6	8	0	4	4	1.33
(修士課程) 医科学専攻	5	0	2	2	0	2	2	0.40
医学系 (博士前期課程) 保健学専攻	12	4	8	12	2	7	9	1.00
研究科 (博士後期課程) 保健学専攻	3	3	2	5	2	2	4	1.67
(博士課程) 医学専攻	30	15	9	24	15	9	24	0.80
理工学研究科(博士前期課程)	150	161	14	175	137	11	148	1.17
理工学研究科(博士後期課程)	10	6	0	6	6	0	6	0.60

※国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く(但し、国際資源学研究科において、国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を含む)。

〈学生総数(学部学生)〉 平成30年5月1日現在

	人数	%
北海道	124	3.0%
東北 2,576 (61.5%)	青森	5.0%
	岩手	6.7%
	秋田	38.5%
	宮城	4.1%
	山形	4.2%
	福島	2.2%
関東	865	20.5%
中部	550	13.1%
近畿	54	1.3%
中国	17	0.4%
四国	10	0.2%
九州	34	0.8%
学生総数	4,212	

※学生総数は、国内の高校出身者の合計であり、留学生及び編入学生等は含まない。

〈医学部〉

	人数	%	
東北 635 (53.4%)	北海道	29	2.4%
	青森	27	2.3%
	岩手	85	7.2%
	秋田	434	36.6%
	宮城	49	4.1%
	山形	33	2.8%
福島	11	0.9%	
関東	372	31.3%	
中部	110	9.3%	
近畿	13	1.1%	
中国	5	0.4%	
四国	2	0.2%	
九州	17	1.4%	
計	1,187		

〈国際資源学部〉

	人数	%	
東北 207 (45.5%)	北海道	17	3.6%
	青森	28	5.9%
	岩手	33	7.0%
	秋田	96	20.4%
	宮城	25	5.3%
	山形	18	3.8%
福島	22	4.7%	
関東	118	25.1%	
中部	83	17.6%	
近畿	15	3.2%	
中国	7	1.5%	
四国	1	0.2%	
九州	8	1.7%	
計	471		

〈理工学部〉

	人数	%	
東北 920 (57.6%)	北海道	60	3.6%
	青森	113	6.8%
	岩手	124	7.5%
	秋田	499	30.2%
	宮城	66	4.0%
	山形	74	4.5%
福島	47	2.8%	
関東	312	18.9%	
中部	317	19.2%	
近畿	24	1.5%	
中国	5	0.3%	
四国	4	0.2%	
九州	8	0.5%	
計	1,653		

〈教育文化学部〉

	人数	%	
東北 773 (87.3%)	北海道	18	2.0%
	青森	42	4.8%
	岩手	41	4.7%
	秋田	589	66.9%
	宮城	30	3.4%
	山形	47	5.3%
福島	13	1.5%	
関東	60	6.8%	
中部	36	4.1%	
近畿	2	0.2%	
中国	0	0.0%	
四国	2	0.2%	
九州	1	0.1%	
計	881		

〈工学資源学部〉

	人数	%	
東北 41 (62.1%)	北海道	0	0.0%
	青森	1	5.0%
	岩手	1	5.0%
	秋田	4	20.0%
	宮城	1	5.0%
	山形	4	20.0%
福島	1	5.0%	
関東	3	15.0%	
中部	4	20.0%	
近畿	0	0.0%	
中国	0	0.0%	
四国	1	5.0%	
九州	0	0.0%	
計	20		

卒業者・修了者数

〈学部・大学院・専攻科〉

学 部			大 学 院			専 攻 科			
区 分	29年度	累 計	区 分	29年度	累 計	区 分	累 計		
国際資源学部	107	107	国際資源学研究科 (博士前期課程)	24	24				
教育文化学部	217	4,966	教育学研究科 (修士課程)	7	891	教育専攻科	78		
教育学部		14,519	教育学研究科 (専門職学位課程)	24	28	特殊教育特別専攻科	212		
医学部	243	5,560	医学系研究科 (修士課程)	2	63				
			医学系研究科 (博士前期課程)	11	91				
			医学系研究科 (博士後期課程)	3	25				
			医学系研究科 (博士課程)	35	187				
			医学研究科		791				
理工学部	370	373	理工学研究科 (博士前期課程)	121	122				
			理工学研究科 (博士後期課程)	1	1				
工学資源学部	37	7,461	工学資源学研究科 (博士前期課程)	7	2,021				
			工学資源学研究科 (博士後期課程)	10	138				
鉱山学部		14,522	鉱山学研究科 (修士課程)		1,270				
			鉱山学研究科 (博士前期課程)		1,012				
			鉱山学研究科 (博士後期課程)		123				
			計	245	6,787	計	348		
【注】※鉱山学専攻科…昭和40年3月廃止 ※教育専攻科…平成元年3月廃止 ※鉱山学研究科(修士課程)…平成9年3月廃止									
※教育学部…平成10年4月教育文化学部に改組・改称 ※鉱山学部…平成10年4月工学資源学部に改組・改称									
※鉱山学研究科…平成14年4月工学資源学研究科に改組・改称 ※特殊教育特別専攻科…平成20年3月廃止									
※医学研究科…平成19年4月医学系研究科に改組・改称 ※工学資源学部…平成26年4月理工学部に改組・改称									
※工学資源学研究科…平成28年4月理工学研究科に改組・改称									

〈医療技術短期大学部〉

区 分	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
累 計	1,015	246	254

【注】※医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

学位授与数

区 分		平成30年5月1日現在				
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
国際資源学研究科	修士(資源学)					4
	修士(理学)					8
	修士(工学)					12
	小 計					24
教育学研究科	修士(教育学)	34	24	31	28	7
	教職修士(専門職)				4	24
	小 計	34	24	31	32	31
医学系研究科	修士(医学)	0	0	3	1	2
	修士(看護学)	6	6	4	7	4
	修士(リハビリテーション科学)	7	8	7	4	7
	博士(保健学)(課程)	3	4	3	5	3
	博士(医学)(課程)	24	25	23	27	35
	博士(医学)(論文)	4	3	4	0	2
	小 計	44	46	44	44	53
医学研究科	博士(医学)(課程)	3				806
	博士(医学)(論文)	0				574
	小 計	3				1,380
理 工 学 研 究 科	修士(理学)				1	9
	修士(工学)					26
	修士(工学)					86
	博士(理学)					1
	小 計				1	122
工学資源学研究科	修士(工学)	134	101	145	136	6
	修士(資源学)	3	6	6	14	1
	修士(理学)	8	13	11	15	47
	博士(工学)(課程)	10	8	7	9	9
	博士(資源学)(課程)	0	1	0	2	1
	博士(理学)(課程)				1	3
	博士(工学)(論文)	2	0	1	0	1
	博士(資源学)(論文)	0	0	0	0	0
	博士(理学)(論文)				0	0
	小 計	157	129	171	178	18
鉱山学研究科	修士(工学)					2,252
	修士(資源学)					30
	修士(工学)(課程)					117
	博士(資源学)(課程)					6
	博士(工学)(論文)					31
	小 計					2,436
合 計		238	199	246	255	248
						7,451

卒業者等就職状況

平成28・29年度学生表彰(学業奨励金)受賞者

区分	卒業者数	進学者数	就職者数		産業別就職者数														学校教育員			公務員			その他(産業別)	その他	未就職者									
			県内	県外	農林水産業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス等	情報通信業	運輸郵便業	卸・小売業	金融保険業	不動産業	学術研究専門技術サービス業	宿泊飲食業	医療福祉	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	高専大学等	特別支援学校	その他(教員)	教員の計	教員以外	複合サービス業	サービス業								
			国家	地方	公務員の計																															
学部	国際資源学部	107	47	58 9 49	—	5	9	6	11	2	2	2	9	—	4	2	—	—	—	—	—	—	0	—	1	2	1	1	2	—	2	0				
	教育文化学部	217	20	186 100 86	1	—	4	10	—	15	2	4	16	4	2	5	8	2	33	12	3	—	13	—	63	1	1	2	13	4	31	35	—	10	1	
	医学部	243	5	227 90 137	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	11	0
	理工学部	370	148	205 32 173	—	—	21	67	7	20	6	9	5	2	8	2	3	—	—	—	3	—	—	3	—	1	—	1	8	42	50	—	17	0		
	工芸学部	37	9	27 3 24	—	—	3	10	—	3	—	1	1	1	5	1	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	1	—	1	1	—	1	0			
	小計	974	229	703 234 469	1	5	37	93	18	40	10	16	31	7	19	10	237	2	33	12	6	0	13	0	66	1	3	4	16	13	76	89	0	41	1	
大学院	国際資源学部	25	8	8 1 7	—	1	2	2	1	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	0	—	—	0	—	—	0	—	—	0	—	9	0	
	教育文化学部	31	0	29 22 7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	10	6	3	—	5	—	24	—	—	0	—	—	0	—	—	0	—	2	0
	医学系研究科	53	0	52 48 4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50	—	—	—	—	—	—	2	2	—	—	0	—	—	—	—	—	0	—	1	0	
	理工学系研究科	122	2	120 8 112	—	—	5	81	9	16	2	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	0
	学芸学部	17	0	12 1 11	—	2	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2	4	—	—	—	—	—	0	—	2	3	
	小計	248	10	221 80 141	0	3	8	86	10	16	2	0	0	0	6	0	55	0	10	6	3	3	5	2	29	4	0	0	0	0	1	1	1	14	3	
合計			1222	239	924 314 610	1	8	45	179	28	56	12	16	31	7	25	10	292	2	43	18	9	3	18	2	95	5	3	4	16	13	77	90	1	55	4

秋田大学学生表彰(学業奨励金)被表彰者名簿

学部	学科・課程・コース等	28年度学年	氏名
国際資源学部	資源政策コース	2	高橋 雪美
	資源開発環境コース	2	金 波
教育文化学部	学校教育課程英語教育コース	1	佐藤 彩佳
	学校教育課程教育実践コース	2	三浦 茉子
	地域文化学科人間文化コース	3	榎原 智
医学部	医学科	3	館野 桃佳
	医学科	3	鈴木 陽子
	保健学科看護学専攻	3	佐々木 香乃
	保健学科作業療法学専攻	3	高橋 亜花里
理 工 学 部	物質科学科 材料理工学コース	3	外山 大地
	数理・電気電子情報学科 数理科学コース	2	樋口 将太
	数理・電気電子情報学科 電気電子工学コース	2	鎌田 慎也
	数理・電気電子情報学科 人間情報工学コース	2	島崎 徹
	システムデザイン工学科 機械工学コース	3	三ヶ田 拓人
	システムデザイン工学科 創造生産工学コース	2	櫻庭 由紀乃

平成29年度学生表彰等受賞者

学生表彰被表彰者一覧(学術研究活動関係)

賞	氏名	所属	業績内容	指導教員
優秀賞 (個人)	モーゼス チャールズ シアメ	国際資源学研究科 博士前期課程 資源開発環境専攻 2年次	・平成29年11月に開催されたICCMEME 2017 : 19th International Conference on Chemical, Material, Metallurgical Engineering and Mine Engineeringにおける一般発表において、「Treatment of Low-Grade Iron Ore Using Two Stage Wet High-Intensity Magnetic Separation Technique」の題目で口頭発表を行い、「Best Paper Award」を受賞した。	柴山 敦
〃	小 山 慧	医学部医学科 6年次	・平成29年4月に開催された第106回日本病理学会総会において、一般演題として「正常卵管に存在するβ-catenin異常細胞集塊β-catenin signature」の発表を行い、その内容がThe United States and Canadian Academy of Pathology Annual Meeting 2018の一般演題に採択された。また、第105回日本病理学会総会において、一般演題として発表した内容を英文論文としてまとめたものが、学術雑誌Human Pathologyに受理された。	後藤 明輝
〃	富 田 浩 平	理工学研究科 博士前期課程 物質科学専攻 2年次	・平成29年11月に開催された第14回アジア鋳物会議のポスターセッションにおいて、「Effects of Heat Transfer Behavior on Shrinkage Cavity Formation Process in Pure Metal Castings」と題した論文を発表し、Best Paper Awardを受賞した。 ・日本鋳造工学会において、2件の講演発表を行った。	麻生 節夫
奨励賞 (個人)	アディ スラクソノ	国際資源学研究科 博士前期課程 資源地球科学専攻 2年次	・平成29年6月に開催された資源地質学会において、「Anhydrite and Cu mineralization in the Grasberg porphyry Cu-Au+/-Mo deposit, Indonesia」と題した表題で発表し、ベストポスター賞を受賞した。 ・共同著者として国際誌Resource Geologyに投稿し、受理されている。 ・その他論文発表1件、国際学会発表3件を行った。	渡辺 寧
〃	神 航 介	国際資源学部 資源開発環境コース 4年次	・平成29年9月に開催された日本原子力学会2017年秋の大会において、「Enthalpy and heat capacity of Na ₂ MoO ₄ and CaMoO ₄ 」と題したポスター発表を行い、学部・修士・博士を対象とした「学生ポスターセッション新人賞」を受賞した。	石山 大三
〃	甲 州 健 太	医学部医学科 4年次	・平成29年3月に開催された第122回日本解剖学会全国学術集会の学生セッションにおいて、「皮下組織と血管の走行」というタイトルでポスター発表を行い、肉眼解剖学トラベルアワード(献体協会賞)を受賞した。	阿部 寛
〃	清 水 翔 太	医学部医学科 4年次	・平成29年3月に開催された第122回日本解剖学会全国学術集会の学生セッションにおいて、「気管支分岐機構に関する研究—B ⁺ 出現機構に関する考察—」というタイトルでポスター発表を行い、肉眼解剖学トラベルアワード(献体協会賞)を受賞した。	阿部 寛
〃	月 田 光	医学部医学科 5年次	・平成29年4月に開催された第106回日本病理学会総会、ポスター発表(学部学生の部)、泌尿器・腫瘍セッションにおいて、「膀胱癌手術材料におけるHuman Papilloma Virus感染の検討」と題した口頭発表を行い、最優秀賞を受賞した。	後藤 明輝
〃	中 村 みのり	医学部医学科 5年次	・平成29年4月に開催された第106回日本病理学会総会、ポスター発表(学部学生の部)、呼吸器・腫瘍セッションにおいて、「Elastica-Masson染色と免疫染色の二重染色における、肺癌の静脈浸潤判定の検討」と題した口頭発表を行い、最優秀賞を受賞した。	後藤 明輝
〃	酒 井 謙 典	理工学研究科 博士前期課程 共同ライフサイクルデザイン 工学専攻 1年次	・平成29年11月に開催された第41回日本磁気学会学術講演会において、「アキシャルギャップ誘導モータの基礎特性解析に関する研究」と題した口頭発表が学生講演賞(桜井講演賞)を受賞した。 ・上記学会発表を基に、日本磁気学会論文特集号2巻1号に英文論文を投稿中である。 ・その他筆頭著者として2件国内学会発表を行った。	田島 克文
〃	小 川 貴 由	理工学研究科 博士前期課程 物質科学専攻 2年次	・平成29年5月に開催された第66回高分子学会年次大会において、「超強酸を用いた芳香族アシル化反応による非等モル重合」と題したポスター発表を行い、優秀ポスター賞を受賞した。 ・当該研究をまとめた学術論文がPolymer Chemistry(イギリス王室化学会出版、インパクトファクター5.375)に受理され、審査員からの評価が高い論文として雑誌のフロントカバーに採用された。	寺境 光俊
〃	澤 真 也	理工学研究科 博士前期課程 数理・電気電子情報学専攻 2年次	・平成29年9月に開催された第41回静電気学会全国大会において、「処理範囲向上を目指した水平電極式動電法(FEM-EK法)による汚染土壌の修復」と題した論文が宍戸奨励賞を受賞した。 ・また、同上論文が静電気学会誌42巻1号に掲載されることが決定した。 ・国内学会発表を2件行った。	倉林 徹
〃	トン タット ロイ	理工学研究科 博士後期課程 総合理工学専攻 2年次	・平成29年10月に開催された「8th International Conference on Materials Engineering for Resources (ICMR 2017 AKITA)」において、「Improvement of Heating Efficiency and Magnetization Property of Ferromagnetic Implant with Low Curie Temperature for Hyperthermia using Nano-Magnetic Fluid」と題した論文が「Excellent Paper Award (優秀論文賞)」を受賞した。 ・平成28年度に日本学術振興会特別研究員に採用され、筆頭著者として原著論文3本、第二著者として原著論文1本が学術雑誌に採録されている。 ・また、筆頭著者として国際会議・国内研究会においてそれぞれ4件の学会発表を行った。 ・研究成果として、現在2件の特許を出願中である。	水戸部 一孝
〃	ファム ミン クエン	工学資源学研究科 博士後期課程 資源学専攻 3年次	・平成29年5月に開催された公益社団法人日本地球惑星科学連合(JpGU)主催のJpGU-AUG Joint Meeting(日本地球惑星科学連合2017年大会はアメリカ地球物理学連合との合同開催)におけるポスター発表において、若手の優秀な発表者のみに贈られる「学生優秀発表賞」を受賞した。	石山 大三

学生表彰被表彰者一覧〈課外活動関係〉

賞	氏名	所属	種目／成績	大 会 名		所属団体	顧問教員
優秀賞 (個人)	広田 有紀	医学部 医学科4年次	女子800m 第 2 位	第86回日本学生陸上競技対校 選手権大会		医学部女子 陸上競技部	河谷 正仁
//	間瀬 友亮	理工学部 数理・電気電子情報学科 3年次					
//	佐藤 光	教育文化学部 学校教育課程3年次					
//	榎本 雅久	工学資源学部 機械工学科4年次					
奨励賞 (団体)	柔道部		第3位	第59回全国国立大学柔道優勝大会			三戸 範之
奨励賞 (個人)	濱田 風香	教育文化学部 学校教育課程2年次	女子走高跳 優 勝	第68回東北地区大学体育大会 陸上競技の部		陸上競技部	松下 翔一
//	鈴木 京介	教育文化学部 学校教育課程2年次	男子ハンドボール ベスト7	第52回東北学生ハンドボール 春季リーグ戦(1部リーグ)		男子 ハンドボール部	佐藤 靖
//	内山 晃嘉	理工学部 数理・電気電子情報学科 4年次	男子ハンドボール ベスト7	第62回東北学生ハンドボール 秋季リーグ戦(1部リーグ)		男子 ハンドボール部	佐藤 靖
//	下嶋 詩織	教育文化学部 学校教育課程3年次	女子ハンドボール ベスト7	第62回東北学生ハンドボール 秋季リーグ戦(Aリーグ)		女子 ハンドボール部	佐藤 靖
//	丹 智広	教育文化学部 学校教育課程1年次	男子60kg級 優 勝	平成29年度東北学生柔道 体重別選手権大会		柔道部	三戸 範之
//	白井 康太	理工学部 物質科学科3年次	男子本戦 優 勝	第23回東北学生基礎スキー技術 選手権大会		基礎スキー部	高崎 康志
//	八本 直季	医学部 医学科5年次	男子800m 優 勝	第74回全日本医歯薬専門大学対抗 陸上競技選手権大会		医学部男子 陸上競技部	山田 祐一郎
//	亀山 雛子	医学部 医学科3年次	女子100m, 女子200m 優 勝	第74回全日本医歯薬専門大学対抗 陸上競技選手権大会		医学部女子 陸上競技部	河谷 正仁

学生表彰被表彰者一覧〈人命救助関係〉

賞	氏名	所属	受賞内容	指導教員
奨励賞 (個人)	富樫 啓太郎	教育学研究科 教職実践専攻2年次	・平成29年6月27日に秋田市立上北手小学校で学校実習を実施中に学校生活支援センターが突然倒れて意識を失った際、心肺停止の状況から、緊急措置が必要と判断し、胸部圧迫処置を開始するとともに、その後は看護教諭と協力しながらAEDを装着し、救急車が到着するまでの間、胸部圧迫処置を継続して実施した。 ・救急隊員によると、今回の状況は1分1秒を争う深刻なものであり、救急車到着までの処置が適切に行われたことが彼女の命を救うことにつながった。	関谷 美佳子

副学長表彰被表彰者一覧(教育活動関係)

賞	氏名	所属	業績内容	指導教員
教育活動 (個人)	佐藤 彩佳	教育文化学部 学校教育課程2年次	・ ALL ROOMsスタッフとしての活動歴は1年程だが、既に今年度TOEIC885点、TOEFLもiBT、PBTとともに基準点をクリアするという特筆すべき英語力向上を示した。スタッフとしても新規学生ユーザーの勧誘に積極的に取り組んだ。また、5月には国際教養大学にて開催されたJALT SIG全国大会、12月には神田外語大学で開催されたJASAL 2017全国大会においてALL ROOMsの研究活動を他のメンバーとともに発表し、ALL ROOMsの全国発信についても尽力している。	後藤 猛
〃	奥山 健人	理工学部 数理・電気電子情報学科 3年次	・ ALL ROOMsスタッフとしての活動歴は2年。1年間のアメリカ留学（トビタテ!留学JAPAN）を経て、今年度TOEIC925点に到達した。英語が専門でない中で、このような秀でた英語力を身に付けたことは、称賛に値する。また、斬新なアイディアを常に提供し、TEDトークイベント等を新たに企画するなど、ALL ROOMsの新しい方向性について積極的に取り組んでいる。トビタテ!留学JAPANでの留学経験を最大限他のスタッフと学生ユーザーに還元しようとする姿勢が常に見られ、現在のALL ROOMsを率いてくれている。	後藤 猛

副学長表彰被表彰者一覧(課外活動関係)

賞	氏名	所属	種目/成績	大 会 名	所属団体	顧問教員
課外活動 (団体)	男子ハンドボール部		男子1部リーグ 第3位	第52回東北学生ハンドボール春季リーグ戦		佐藤 靖
			男子の部 D組2位	第39回ミニミニカップ平成29年度 東日本学生ハンドボール選手権大会		
			男子1部リーグ 第3位	第62回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦		
〃	女子ハンドボール部		女子の部Aリーグ 第4位	第52回東北学生ハンドボール春季リーグ戦		佐藤 靖
			女子の部Aリーグ 第4位	第62回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦		
〃	基礎スキー部		女子総合優勝	第23回東北学生基礎スキー技術選手権大会		高崎 康志
〃	医学部女子バスケットボール部		女子の部優勝	第60回東日本医科学生総合体育大会 バスケットボール競技		齊藤 元
〃	医学部剣道部		男子団体優勝	第60回東日本医科学生総合体育大会剣道競技		羽渕 友則
課外活動 (個人)	田端 恵	理工学部 システムデザイン工学科 2年次	男子の部個人 準優勝	第56回東北学生弓道大会	弓道部	水戸部一孝
〃	一戸歩生	教育文化学部 学校教育課程1年次	男子66kg級 優勝	第34回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之
〃	佐藤拓真	教育文化学部 学校教育課程4年次	男子73kg級 優勝	第34回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之
〃	成田大佑	教育文化学部 学校教育課程4年次	男子73kg級 準優勝 男子66kg級 第3位	第34回東北国公立大学柔道大会 第36回東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部	三戸 範之
〃	馳尾幸太郎	教育文化学部 学校教育課程1年次	男子81kg級 優勝	第34回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之
〃	新山壮一朗	教育文化学部 学校教育課程2年次	男子81kg級 準優勝	第34回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之
〃	野村武弘	教育文化学部 学校教育課程1年次	男子81kg級 第3位	第34回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之
〃	柿崎比呂	教育文化学部 学校教育課程3年次	男子100kg級 第3位	第36回東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部	三戸 範之
〃	櫻庭あさひ	教育文化学部 学校教育課程3年次	女子無差別級 優勝	第34回東北国公立大学柔道大会	柔道部	三戸 範之
〃	畠山晃	理工学部 物質科学科2年次	男子個人形 準優勝	第68回東北地区大学体育大会 空手道の部	空手道部	島田洋一
〃	松世朔哉	国際資源学部 資源開発環境コース2年次	男子200mバタフライ 第3位 男子400m自由形 第3位	第6回北部学生春季公認記録会 第32回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤 豊
〃	福原一輝	理工学部 システムデザイン工学科 2年次	男子100m平泳ぎ 第1位	第32回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤 豊
〃	村岡孝義	教育文化学部 学校教育課程1年次	男子400m メドレーリレー	第6回北部学生春季公認記録会	水泳部	伊藤 豊
	福原一輝	理工学部 システムデザイン工学科 2年次				
	松世朔哉	国際資源学部 資源開発環境コース2年次				
	山口浩平	医学部 医学科6年次				
〃	清水紗英	理工学部 生命科学科3年次	女子50m自由形 第2位	第10回北部学生選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤 豊
〃	佐々木優美	理工学部 生命科学科3年次	女子200m平泳ぎ 第3位	第6回北部学生春季公認記録会	水泳部	伊藤 豊
〃	島田宥子	理工学部 物質科学科3年次	女子200m個人メドレー 第2位	第6回北部学生春季公認記録会	水泳部	伊藤 豊
〃	松田朝妃	理工学部 システムデザイン工学科 2年次	女子200m背泳ぎ 第3位	第32回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会	水泳部	伊藤 豊
〃	福田葵	医学部 医学科5年次	女子クロスカントリー5km 優勝 女子スプリント 優勝	第59回東日本医科学生総合体育大会スキー競技 第59回東日本医科学生総合体育大会スキー競技	医学部女子 競技スキー部	高橋直人
〃	矢口愛実	医学部 医学科6年次	女子ダブルス	優勝	医学部女子 卓球部	西川俊昭
〃	佐藤綾	医学部 医学科4年次				
〃	佐藤里音	医学部 医学科3年次	女子バスケットボール 最優秀選手	第60回東日本医科学生総合体育大会バスケットボール競技	医学部女子 バスケットボール部	齊藤元
〃	近藤侃	医学部 医学科5年次	男子個人戦 優勝	第60回東日本医科学生総合体育大会剣道競技	医学部剣道部	羽渕友則
〃	木村早希	医学部 医学科3年次	女子個人戦 優勝	第60回東日本医科学生総合体育大会剣道競技	医学部剣道部	羽渕友則
〃	伊藤拓	医学部 医学科5年次	成年男子シングルスカル 準優勝	第72回国民体育大会東北ブロック大会兼 第44回東北総合体育大会ボート競技	医学部男子ボート部	後藤明輝
〃	伊藤拓	医学部 医学科5年次	男子ダブルスカル	優勝	医学部男子ボート部	後藤明輝
〃	木村建介	医学部 医学科1年次				

外国人留学生数

国名	学 部										大 学 院										合 計													
	学 部					大 学 院					合 計																							
	国際資源 学部	教育文化 学部	医学部	工学資源 学部	理工 学部	大学 院	国際資源 研究科	教育学 研究科	医学系 研究科	理工学 研究科	工学資源学 研究科	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	合計								
中国	45	1		4	1	15 (13)	2				19 (1)	3	28 (2)	1	18 (13)	7	1				4 (1)		2 (1)		7 (2)	33 (4)	33	18 (13)	19	52				
マレーシア	34	11 (6)									23		34 (15)		3					3				3		37 (15)	37		37					
ベトナム	21	2 (1)				1 (1)					18 (8)		21 (10)		2	1				1			2		23 (10)	23		23						
韓国	9			7							1 (1)	1	1 (1)	8	2	2							2		3 (1)	3	8	8	11					
モンゴル	12	6 (3)	3 (2)		2 (2)						1 (1)	6 (3)	6 (5)	7 (1)	5 (2)						1 (1)		1 (1)	6 (3)	1 (1)	12 (6)	13	6 (5)	6	19				
アラブ首長国連邦	2	2									2		0												2	2			2					
サンビア											2	1				1				1	1			1	1	2			2					
インドネシア											12 (1)	5 (1)	6 (1)							1		5 (1)	7 (1)		5 (1)	7 (1)	12			12				
ボツワナ											5 (3)	4 (1)									4 (3)	1 (1)		4 (3)	1 (1)	5			5					
アフガニスタン											3	2							1		1	2		1	2	3			3					
南アフリカ											1 (1)										1 (1)			1 (1)	1				1					
ジンバブエ											1	1										1			1	1				1				
ケニア											1	1										1			1	1				1				
タイ											1									1 (1)		1 (1)			1 (1)	1			1					
フィリピン											8 (3)	5 (1)	1			1				1 (1)		6 (4)	1	1	6 (4)	1	7	1	1	8				
パプアニューギニア											3	2 (1)									2 (1)			2 (1)	3				3					
イラン											1								1		1			1	1				1					
台湾	6		4 (2)	1							1	1	5 (2)	0											1	1	5 (2)	5	6					
パキスタン											1	1										1			1	1				1				
セルビア											1									1		1			1	1				1				
モザンビーク											5	4 (2)							1 (1)			5 (3)		5 (3)	5			5						
ラオス											1	1								1		1			1	1				1				
アメリカ	1		1								1	0													1	1				1				
ドイツ	1		1 (1)								1 (1)	0													1 (1)	1			1					
イタリア											1	1								1		1			1	1				1				
ルーマニア	1		1 (1)								1 (1)	0													1 (1)	1			1					
ブータン											1		1						1		1			1		1			1					
ベラルーシ	1		1 (1)								1 (1)	0													1 (1)	1			1					
計	133	22 (10)	4 (3)	4 (1)	3 (2)	28 (17)	5 (1)				6 (19)	6 (1)	92 (31)	3 (2)	38 (21)	69 (8)	18 (8)	30 (6)		2		1 (2)	9 (2)	5 (2)	4 (2)	24 (10)	43 (12)	2	24 (10)	135 (43)	159 (2)	38 (21)	43	202

※()内は、女子学生数(内数) ※「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示し、大学推薦・大使館推薦・国内採用を含む。

※「非正規」とは、日研生・教研生・特別聴講学生／特別研究生(交換留学生)・科目等履修生・研究生を指す。

※「私費」には、政府派遣留学生(アラブ首長国連邦・マレーシア)を含む。

外国人研究員等

外国人研究員数

平成29年度受入実績

部局名	国・地域	人数
理学研究科	中国	2
	インド	2
	アメリカ	1

外国人客員研究員数

平成29年度受入実績

部局名	国・地域	人数
国際資源学研究科	インドネシア	3
	コロンビア	1
	ベトナム	1
	中国	1
医学系研究科	ベラルーシ	2
理学研究科	ニュージーランド	1

非常勤研究員数

平成29年度受入実績

部局名	国・地域	人数
理学研究科	インド	2
	ロシア	1
地方創生センター	中国	2
	インド	3

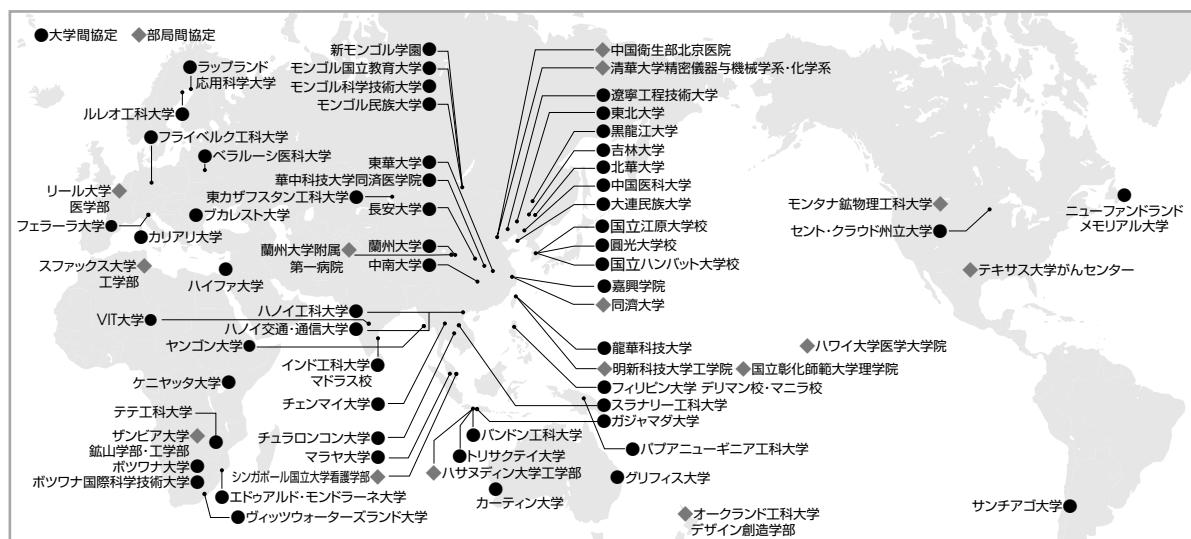
国際交流協定校

〈大学間協定(28カ国地域56大学)〉

国・地域名	大学名	締結年月日
アジア	インド工科大学マドラス校	平成26年 3月21日
	VIT大学	平成27年 6月12日
インドネシア	バンドン工科大学	平成24年 7月12日
	トリサクティ大学	平成26年 6月10日
韓国	ガジャマダ大学	平成27年 6月 8日
	国立ハンバット大学校	平成13年 6月 8日
タイ	圓光大学校	平成19年10月12日
	国立江原大学校	平成20年 3月24日
台湾	チュラロンコン大学	平成24年11月28日
	スラナリーエクスカレッジ	平成27年 8月17日
中国	チエンマイ大学	平成27年12月10日
	龍華科技大学	平成17年 7月15日
中国	黒龍江大学	昭和63年10月19日
	中国医科大学	平成元年10月 6日
	中南大学	平成16年 8月24日
	遼寧工程技術大学	平成17年 4月20日
	大連民族大学	平成17年 6月27日
	蘭州大学	平成17年 8月 1日
	吉林大学	平成19年 2月 6日
	東北大学	平成19年 8月 9日
	東華大学	平成21年12月 3日
	華中科技大学同濟医学院	平成22年 3月24日
フィリピン	長安大学	平成22年11月18日
	北華大学	平成24年11月20日
フィリピン	嘉興学院	平成26年11月12日
	フィリピン大学デリマン校	平成24年 9月24日
ベトナム	フィリピン大学マニラ校	平成25年 2月 4日
	ハノイ工科大学	平成20年12月 2日
マレーシア	ハノイ交通・通信大学	平成20年12月 3日
	マラヤ大学	平成25年11月20日
モンゴル	ミャンマー	平成26年 9月19日
	ヤンゴン大学	平成21年10月22日
モンゴル	モンゴル科学技術大学	平成22年 7月23日
	モンゴル国立教育大学	平成25年 6月19日
モンゴル	モンゴル民族大学	新モンゴル学園
	新モンゴル学園	平成28年 1月25日
中東	イスラエル	ハイファ大学
アフリカ	ケニア	ケニヤッタ大学
	ボツワナ	ボツワナ国際科学技術大学
オセアニア	モザンビーク	ボツワナ大学
	南アフリカ共和国	エドワード・モンドラーネ大学
オセアニア	オーストラリア	テテ工科大学
	パプアニューギニア	南アフリカ共和国大学
北米	アメリカ合衆国	ヴィッソウオーターズランド大学
	カナダ	グリフィス大学
中南米	チリ	カーティン大学
	イタリア	カーティン大学
ヨーロッパ(NIS諸国を含む)	カザフスタン	カーティン大学
	スウェーデン	カーティン大学
ヨーロッパ(NIS諸国を含む)	ドイツ	カーティン大学
	フィンランド	カーティン大学
ヨーロッパ(NIS諸国を含む)	ペラルーシ	カーティン大学
	ルーマニア	カーティン大学

〈部局間協定(11カ国地域21学部等)〉

部局名	国・地域名	大学・学部等名	協定締結年月日
国際資源学 研究科	アジア	インドネシア	ハサヌ丁大学 工学部
	中東	スー丹	紅海大学地球科学部 及び海洋漁業学部
	ヨーロッパ (含NIS諸国)	セルビア	ベオグラード大学工 学部ボル校
医学系 研究科	アジア	中国	中国衛生部北京医院
	シングガポール	シンガポール国立大 学看護学部	平成28年 3月 7日
	ヨーロッパ (NIS諸国を 含む)	フランス	リール大学医学部
	北米	アメリカ	ハワイ大学 ジョン・A・バーンズ 医学大学院
医学部 附属病院	アジア	中国	蘭州大学 附属第一病院
	台湾	台湾	明新科技大学工学院
理工学 研究科	アジア	中国	国立彰化師範大學 理學院
	中国	清華大学 精密儀器与機械学系	平成19年 3月 1日
	同濟大学	清華大学化學系	平成20年 1月17日
	同濟大学	同濟大学材料科学与工程学院	平成22年 5月24日
アフリカ	アフリカ	同濟大学 上海市金属効能材料 開発応用重点実験室	平成22年 5月24日
	ザンビア	サンビア大学鉱山学 部	平成15年 1月20日
	ザンビア	サンビア大学工学部	平成15年 3月12日
	チュニジア	スファックス大学 工学部	平成15年12月18日
オセアニア	オセアニア	ニュージー ランド	オークランド工科大 学デザイン創造学部
	北米	アメリカ	モンタナ鉱物理工科 大学
地方創生 センター	アジア	中国	同濟大学 上海市金属効能材料 開発応用重点実験室



公開講座

〈平成29年度実施〉

講座名	内 容	開催時期	参加者数	担当の学部
北イングランドの文化Ⅲ －映画『リトル・ダンサー』詳解－ (全5回)	2000年に公開され世界的に大ヒットした英国映画『リトル・ダンサー』(原題Billy Elliot)』(脚本リー・ホール)を詳しく解説します。ダラムの炭鉱町でバレエ・ダンサーを目指す少年の姿を描いたこの映画を、イングランド北東部の地域的特色、炭鉱の文化、社会階級、ジェンダー規範、そしてサッチャー首相の1980年代という時代背景を捉えることで、より深く味わいましょう。	平成29年 8月30日(水) ～9月27日(水)	23	教育文化学部
地層・岩石・火山を観察し、秋田の大地の成り立ちと資源について考える (全2回)	男鹿半島に産する火山岩や火山を観察し、秋田の大地の成り立ち、火山とは何か、秋田の鉱物資源との関連を学びます。初日に火山と火山岩、秋田全体や男鹿の地質、大地の成り立ちに関する講義を行い、2日目は男鹿半島に出かけて岩石、地層、火山を観察します。	平成29年 9月30日(土) ～10月1日(日)	35	国際資源学部
肩こり解消！ －原因と体操・筋膜リリース (全3回)	平成28年度公開講座「どうして肩がこるのだろう？原因別の対策」に引き続き、肩こりについて学習し、日常生活・家事や仕事での工夫・対策、誰でも無理なく手軽にできる体操や筋膜リリースを体験しながら学びます。	平成29年 10月12日(木) ～10月26日(木)	14	医学部
情報通信技術(ICT)と私たちの生活 (全5回)	情報通信技術(ICT)の急速な進展により、仕事に娯楽、さらには医療サービス等、人々の生活のあり方までもが大きく変わり始めています。本講座では、高校生からシニア層まで幅広い年齢層を対象として、ICTの現状を多様な視点から解説し、近い将来、私たちの暮らししがどのように変わっていくのかを考えてみたいと思います。	平成29年 10月16日(月) ～11月13日(月)	13	理工学部
サイコロジカル・カフェ (全6回)	秋田大学大学院教育学研究科心理教育実践専攻を担当する専任教員全員による専門領域別のアラカルトメニュー咖啡。最新の心理学の知見を分かりやすく披露します。こころの不思議や健康について、カフェでおしゃべりする感覚で気軽に楽しく体験してみましょう。	平成29年 11月15日(水) ～12月15日(金)	92	教育文化学部
秋田と日本の未来を創る資源学・理工学研究の最前線 (全3回)	秋田大学地方創生センター地域産業研究部門において、秋田県の掲げる重要政策である「航空機・自動車・情報関連・新エネルギー関連の各産業振興」とリンクして進めている研究事業について、本学教員7名が秋田と日本の未来を創る最新の研究成果を紹介します。	平成29年 11月19日(日)	97	地方創生センター
秋田県で想定される自然災害と防災に関する公開講座 (全5回)	東日本大震災から6年が経過しましたが、その後も日本各地では数多くの自然災害が猛威をふるっています。そこで、秋田県で今後起こり得る、また、より発生率の高い自然災害とその対策に関する公開講座を開催します。	平成29年 11月22日(水) ～12月20日(水)	29	地方創生センター
超高齢化社会への対応 (全6回)	全国一の高齢県である秋田県では、医療・介護において様々な取り組みがなされています。秋田大学は、地(知)の拠点としてこれらの問題を解決すべく医理工連携事業に取り組んでいます。さらに、秋田県、秋田県医師会とも連携しオール秋田で総合的な対策を立て、将来へ向けた活動を行っているところです。本講座では具体的な取り組みを紹介し、少子高齢化への対応の最前線を提供します。	平成29年 12月2日(土) ～24日(日)	12	地方創生センター

平成30年度開催予定の公開講座は [秋田大学 公開講座](#) で検索できます。

国内機関との連携・協力協定

〈大学間協定〉

平成30年5月1日現在

	協定締結日	締結先	協定の形態等	備考
自治体	平成18年 9月25日	秋田県	連携協定	
	平成20年 7月11日	秋田市	//	
	平成20年10月24日	大館市	//	
	平成20年11月 5日	小坂町	//	
	平成20年11月17日	能代市	//	
	平成21年 2月 7日	横手市	//	
	平成21年10月 6日	北秋田市	//	
	平成22年 5月26日	大仙市	//	
	平成22年12月10日	八峰町	//	
	平成23年 2月17日	男鹿市	//	
	平成23年 5月13日	美郷町	//	
	平成24年 2月17日	潟上市	//	
	平成24年11月20日	湯沢市	//	
	平成26年 9月26日	東成瀬村	//	
	平成26年11月26日	仙北市	//	
大学	平成10年 3月23日	放送大学	単位互換に関する協定	
	平成14年 3月27日	秋田県内3大学	//	
	平成14年 5月22日	北東北国立3大学	//	
	平成15年10月 9日	秋田県内高等教育機関	//	平成22年4月1日から 12高等教育機関へ拡大
	平成19年12月25日	群馬大学	グローバルCOEプログラム 「生態調節シグナルの統合的研究」	
	平成20年 7月22日	秋田県立大学	連携協力協定	
	平成21年 3月24日	秋田県立大学、国際教養大学	//	平成26年4月1日から秋田公 立美術大学を加えて秋田県内 4大学へ拡大
	平成24年10月 3日	東北公益文科大学	//	
	平成25年 1月31日	東京大学生産技術研究所	//	
その他 企業等	平成15年12月24日	秋田県立脳血管研究センター	連携大学院協定	
	平成17年 3月17日	秋田大学生活協同組合	福利厚生事業に関する協定	
	平成18年 7月19日	(株)秋田銀行	連携協力協定	
	平成18年10月24日	(株)北都銀行	//	
	平成18年12月 6日	商工組合中央金庫秋田支店	産学連携協力推進協定	
	平成19年 3月 6日	(株)日本政策金融公庫 秋田支店	//	中小企業金融公庫から 平成20年10月1日に改称
	平成19年 7月24日	DOWAホールディングス(株)	包括的連携協定	
	平成20年 3月21日	(国研)宇宙航空研究開発機構	宇宙教育活動に関する協力協定	
	平成20年 9月11日	(株)わらび座	連携協力協定	
	平成23年 4月13日	(独)石油天然ガス・金属鉱物 資源機構	資源分野における包括協定	
	平成23年11月29日	美郷町商工会	産学連携に関する覚書	
	平成24年 1月20日	大仙市商工会	//	
	平成25年11月19日	(独)国際協力機構(JICA)	資源分野の戦略的連携合意書	
	平成26年 9月24日	(株)北都銀行	新戦略連携協定	
	平成28年 7月14日	北東北国立3大学、 秋田銀行、岩手銀行、青森銀行	知的財産の活用に関する協定 「ネットピックスプラス」	
	平成29年 3月29日	東京工業大学、(一社)秋田県医師会	連携協定	
	平成29年 4月11日	(株)秋田魁新報社	包括的連携協力協定	

〈部局間協定〉

平成30年5月1日現在

部局名	協定締結日	締結先	協定の形態等
国際資源学部	平成26年11月 1日	高知大学海洋コア総合研究センター	学部間協定
教育文化 学部	平成19年 3月23日	秋田県秋田北高等学校	連携教育協定
	平成21年 3月26日	秋田県教育委員会	秋田県総合教育センター研修員の授業科目の履修に関する協定
	平成24年 8月 1日	秋田県教育委員会、秋田市教育委員会	連携協定
	平成30年 2月 8日	秋田刑務所	共同研究及び連携に関する協定
理工学 研究科	平成17年12月13日	秋田工業高等専門学校	学部間協定
	平成18年10月 1日	国際資源大学校	//
	平成18年11月21日	秋田県産業技術総合研究センター	//
	平成25年12月 5日	秋田県、能代市	連携協定
	平成28年 1月 4日	信州大学工学部	//

役員数

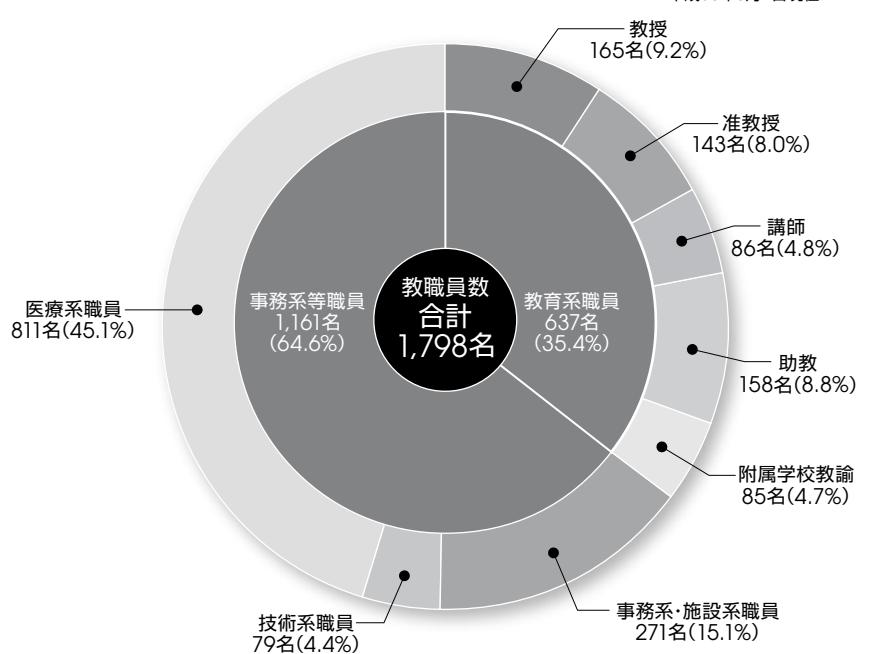
平成30年5月1日現在

区分	学長	理事	監事	計
学長	1			1
理事		5 (1)		5 (1)
監事			2 (1)	2 (1)
計	1	5 (1)	2 (1)	8 (2)

※()内の数は非常勤で内数

教職員数

平成30年5月1日現在



※教育系職員には特任教員を含め、寄附講座等教員を除く。

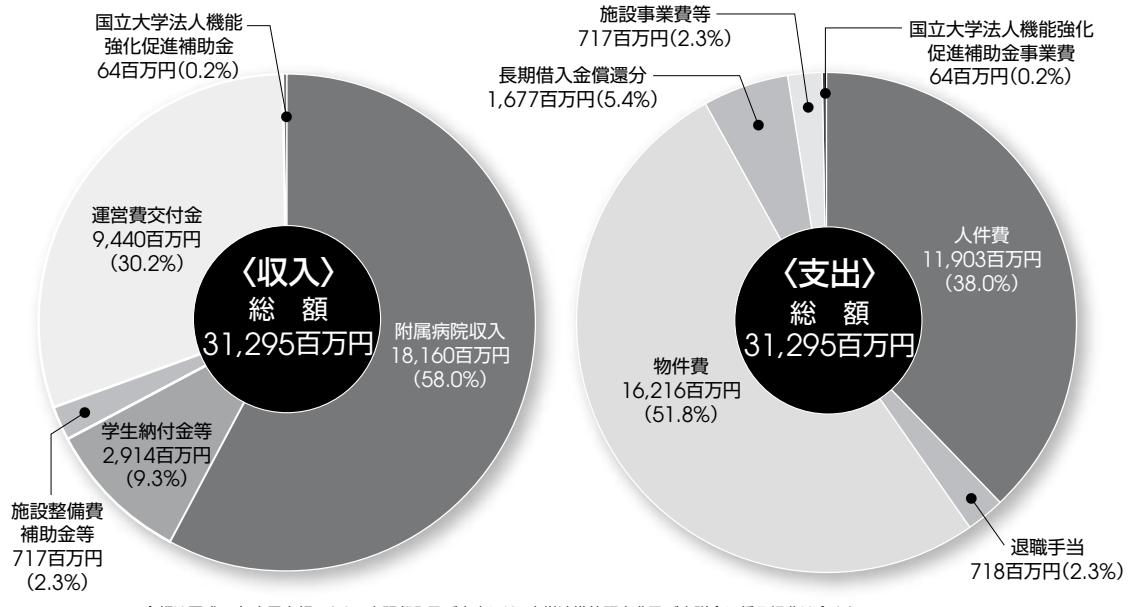
職別・男女別

平成30年5月1日現在

区分	教 授		准教授		講 師		助 教		附属学校教諭		事務系・施設系職員		技術系職員		医療系職員	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男	150	90.9	124	86.7	71	82.6	108	68.4	41	48.2	168	62.0	60	75.9	154	48.2
女	15	9.1	19	13.3	15	17.4	50	31.6	44	51.8	103	38.0	19	24.1	657	51.8
合計	165		143		86		158		85		271		79		811	

平成29年度科学研究費 助成事業採択状況

平成30年度予算



名 称	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	件数	金額								
民間等との共同研究	78	77,127	73	73,014	78	84,678	83	97,547	84	90,666
受託研究	123	283,797	92	381,405	113	530,846	119	496,638	118	395,905
奨学寄附金	737	457,398	702	433,377	739	422,973	753	464,698	729	421,921
寄附講座・部門	5	204,000	4	162,000	4	156,000	4	156,000	3	151,000
合 計	943	1,022,322	871	1,049,796	934	1,194,496	959	1,214,883	913	1,048,520

※受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金・みらい創造基金を含まない。

研究種目	採択件数	交付金額		
		直接経費	間接経費	合計
新学術領域研究(研究領域提案型)	2	37,900	11,370	49,270
基盤研究(S)	1	30,400	9,120	39,520
基盤研究(A)	2	19,200	5,760	24,960
基盤研究(B)	16	61,700	18,510	80,210
基盤研究(C)	170	195,100	58,530	253,630
挑戦的萌芽研究	8	7,700	2,310	10,010
挑戦的研究(萌芽)	4	11,000	3,300	14,300
若手研究(A)	2	4,900	1,470	6,370
若手研究(B)	44	53,500	16,050	69,550
研究活動スタート支援	3	2,800	840	3,640
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)	1	3,700	1,110	4,810
合 計	253	427,900	128,370	556,270
奨励研究	12	6,240	-	6,240

※金額は29年度交付内定額

※国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)については、研究期間に応じて金額を按分

土地・建物

平成30年5月1日現在

区分		建物 延床面積(m ²)	土地(m ²)
手形地区	国際資源学部	学 部	8,904
		附属鉱業博物館	3,864
	教育文化学部	学 部	16,873
		附属教育実践研究支援センター	560
	理工学部	学 部	30,667
		附属革新材料研究センター	2,975
		附属ものづくり創造工学センター	684
	中央図書館		4,604
	情報統括センター		1,003
	地方創生センター 1号館(百周年記念館含む)		2,151
	地方創生センター 2号館		2,878
	放射性同位元素センター		338
	保健管理センター		561
	大学会館(クレール)		3,322
	本部管理棟他		9,800
	体育関係施設		3,827
	課外活動施設		1,396
	小 計		94,407
本道地区	医学部	学 部	34,180
		附属病院	63,944
		附属病院シミュレーション教育センター	1,347
	医学図書館		1,717
	バイオサイエンス教育・研究サポートセンター		7,359
	環境安全センター		366
	本道会館(メディココ)		1,355
	体育関係施設		1,079
	課外活動施設		396
	本道寮(女子)		1,317
	職員宿舎(糠塚)・看護師宿舎		6,878
	保育所		334
	小 計		120,272
保戸野地区	教育文化学部附属幼稚園		1,212
	教育文化学部附属小学校		7,680
	教育文化学部附属中学校		7,628
	教育文化学部附属特別支援学校		3,338
	小 計		19,858
その他	手形寮(女子)、西谷地寮(男子) 他		6,462
	職員宿舎(休下町、城下町 他)		6,074
	上記以外		710
	小 計		13,246
合 計		247,783	465,150

各連絡先・所在地一覧

Telephone Number and Address

〈手形地区〉

名 称	電話番号	所在地
総務企画課総務担当 (総合案内)	018-889-2207	
評価・IRセンター	018-889-2937	
附属図書館 中央図書館	018-889-2273	
健康管理センター	018-889-2286	
産学連携推進機構	018-889-2712	
情報統括センター	018-889-2499	
地方創生センター	018-889-3007	
地方創生センター 1号館	018-889-2680	
地方創生センター 2号館	018-889-3040	
国際資源学教育研究センター	018-889-2810	
放射性同位元素センター	018-889-3006	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
国際交流センター	018-889-2856	
教育推進総合センター	018-889-3191	
高大接続センター 高大接続教育部門	018-889-3045	
高大接続センター アドミッション部門・広報推進部門	018-889-2269	
教員免許状更新講習推進センター	018-889-3205	
学生支援総合センター	018-889-2265	
男女共同参画推進室	018-889-2260	
インフォメーションセンター	018-889-2931	
国際資源学部 総務担当	018-889-2214	
国際資源学部 附属鉱業博物館	018-889-2461	〒010-8502 秋田市手形字大沢28-2
教育文化学部 総務担当	018-889-2509	
教育文化学部 附属教育実践研究支援センター	018-889-2700	
理工学部 総務担当	018-889-2305	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
理工学部 附属革新材料研究センター	018-889-2460	
理工学部 附属ものづくり創造工学センター	018-889-2806	
理工学部 附属地域防災力研究センター	018-889-2305	



手形地区

〈本道地区〉

名 称	電話番号	所在地
医学部 (総合案内)	018-833-1166	
医学部 附属病院 (総合案内)	018-834-1111	
医学部 附属病院 シミュレーション教育センター	018-884-6427	
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 分子医学部門	018-884-6191	
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 動物実験部門	018-884-6193	〒010-8543 秋田市本道1-1-1
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 放射性同位元素部門	018-884-6196	
生体情報研究センター	018-884-6467	
環境安全センター	018-884-6192	
高齢者医療先端研究センター	018-801-7061	
附属図書館 医学図書館	018-884-6052	



本道地区

〈保戸野地区〉

名 称	電話番号	所在地
教育文化学部 附属幼稚園	018-862-2343	〒010-0904 秋田市保戸野原の町14-32
教育文化学部 附属小学校	018-862-2593	〒010-0904 秋田市保戸野原の町13-1
教育文化学部 附属中学校	018-862-3350	〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
教育文化学部 附属特別支援学校	018-862-8583	



保戸野地区

〈その他施設等〉

名 称	電話番号	所在地
西谷寮(男子)	—	〒010-0851 秋田市手形西谷地5-1
手形寮(女子)	—	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
本道寮(女子)	—	〒010-0825 秋田市柳田字糠塚100-3
国際交流会館	—	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
留学生会館	—	〒010-0041 秋田市広面字高田4
横手分校	0182-38-8304	〒013-0036 横手市駅前町1-21
北秋田分校	0186-62-1111	〒018-3392 北秋田市花園町19-1
男鹿なまはげ分校	0185-24-9126	〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
東京サテライト	03-5440-9104	〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター606号室
放送大学秋田学習センター	018-831-1997	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

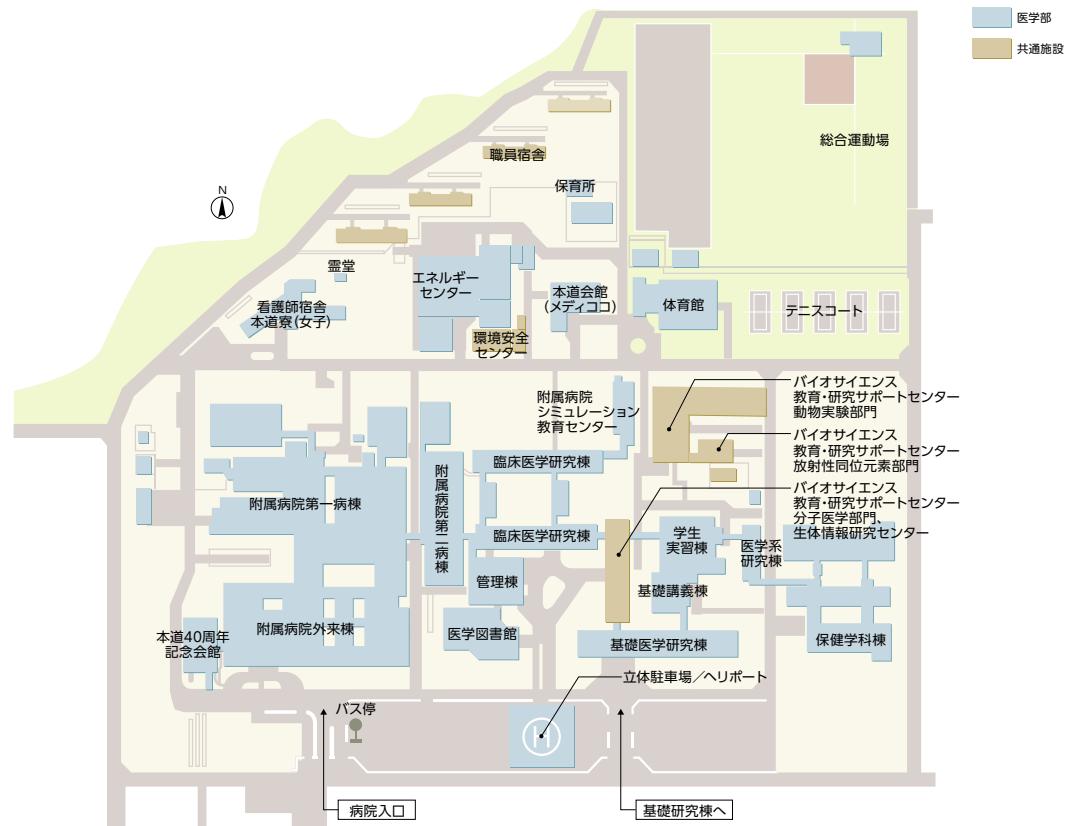
手形地区施設配置図

Tegata Campus Map



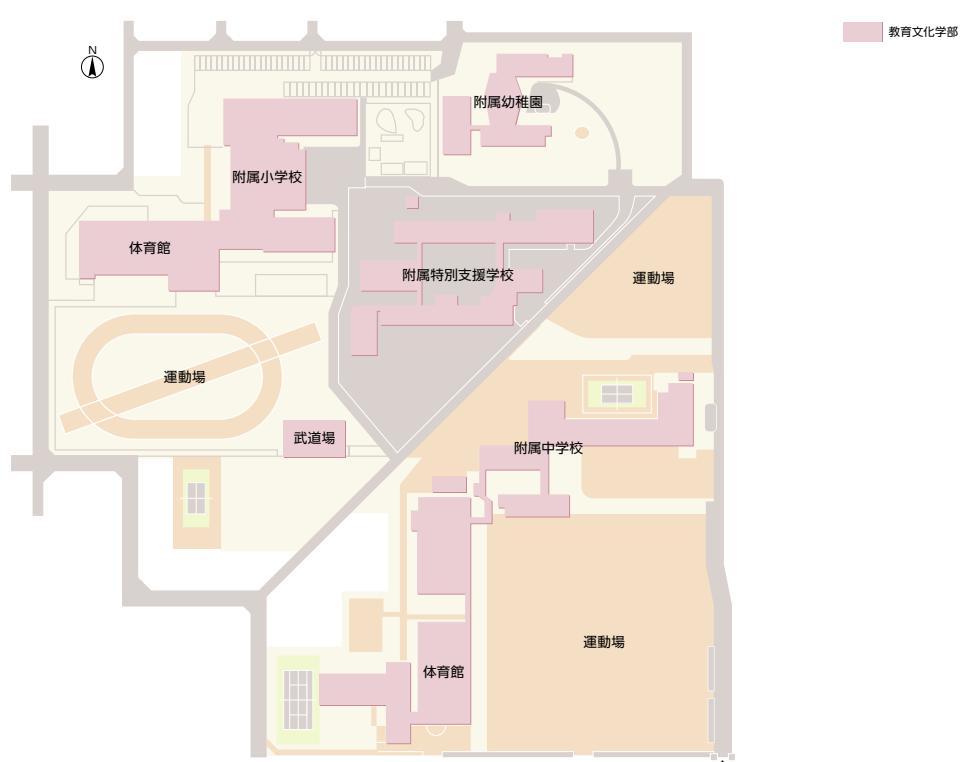
本道地区施設配置図

Hondo Campus Map



保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map



アクセス

Access



〈秋田まで〉

平成30年4月現在

東京から	羽田空港—秋田空港(約1時間5分)
	秋田新幹線「こまち」 東京駅—秋田駅(約4時間)
名古屋から	中部国際空港—秋田空港(約1時間20分)
大阪から	大阪国際(伊丹)空港—秋田空港(約1時間30分)
札幌から	新千歳空港—秋田空港(約1時間)
秋田空港～秋田駅間	秋田空港—秋田駅西口(約35分)
リムジンバス	秋田空港—秋田駅東口(約30分) ※1日1便のみ

〈秋田駅から秋田大学まで〉

平成30年4月現在

行き先	バス路線(秋田中央交通)	秋田駅前バスのりば	下車バス停(所要時間)
手形地区	手形山大学病院線	西口⑫番	秋田大学前(約5~28分)
	秋田温泉線 ※平日のみ	西口⑫番	
	楢山大回り線 ※平日のみ	西口⑨番	
●秋田駅東口より徒歩約15分			
本道地区	太平線	西口⑪番	大学病院前(約12~20分)
	赤沼線	西口⑪番	
	松崎団地線	西口⑪番	
	手形山大学病院線	西口⑫番	
	赤沼線	東口②番	
保戸野地区	神田旭野線	西口⑧番	原の町(約5~21分)
	添川線	西口⑧番	
	神田土崎線 ※平日のみ	西口⑧番	
	泉八橋環状線 ※平日のみ(泉回り)	西口⑧番	
	楢山大回り線 ※平日のみ	西口⑨番	



学年曆

●学年

前 期…… 4月1日～9月30日
後 期……10月1日～3月31日

●式典

入学式……4月 5日
卒業式……3月21日

●休業(平成30年～平成31年)

夏季休業…… 8月10日～ 9月30日
冬季休業……12月26日～ 1月 6日
春季休業…… 2月16日～ 4月 2日

ロゴマーク



秋田大学のロゴマークには、次の四つの意味が表現として込められています。

- 1 本学名称の英語表記“Akita University”の頭文字の小文字“a”を表現している。
 - 2 本学が秋田県に存在し、また秋田県に根ざした大学となることを目指していることから、秋田県の「海岸線」のイメージを表現している。
 - 3 本学が四つの学部から構成される大学であることのイメージを表現している。
 - 4 本学が「世界」と「地域」の両面へ貢献する大学であることのイメージを表現している。
-

秋田大学概要

平成30年度

[編集発行]

秋田大学広報課

秋田市手形学園町1番1号 TEL018-889-3019 FAX018-889-3242
E-mail kouhou@jimu.akita-u.ac.jp
<http://www.akita-u.ac.jp>